

学生の皆さんへ



学長 渡辺敏正

皆さん、ごきげんよう。

新2年生になった皆さんに加えて、今春もフレッシュな新入生を迎えて新しい学園生活が始まることになり、心からうれしく思います。

新入生の皆さんは、大学生としての第1歩を踏み出し、これから2年間の学生生活に大きな期待を抱くとともに、学習内容に関して一抹の不安もまた感じていることでしょう。

また2年生は、間近に迫った卒業後の進路を考えながら、将来を見据えた計画的で有意義な学生生活を送るために、これからの1年を新たな決意で臨んでいることと思います。

本学は、学制改革によって誕生した第1期の短期大学です。その前身である専門学校時代から数えて64年の長い歴史と輝かしい伝統をもっております。その建学の精神は「敬和・温順・質実」という品性ととも、自主創造の精神を涵養することにあります。皆さんは、伝統ある本学での学修活動を通じて、幼稚園教諭や保育士を目指して、幅広い専門的知識や教育・保育技術を修得していくことでしょう。そのなかで、知識や技術のみならず、この建学の精神に示された品性を体現しながら、心身ともに健全で、教育者、保育者としての豊かな人間性も伸ばして欲しいと思います。

大学教育は学生の主体的学習が基本です。講義や演習・実技科目を単に受講するだけでなく、十分な自己学習を行いながら、限られた時間を有効に活用してください。本学では、教育や保育現場で豊富な経験を積んだ多くの教授陣が皆さんを温かく見守りながら応援していきます。学習上の疑問や不明な点は積極的に教員と接することによって、その都度解決してください。皆さんの意欲的な学習姿勢に対して、教員は満足できるよう応えてくれると思います。

この学生便覧やシラバスは、皆さんの学生生活が円滑で豊かに送れるよう、また、教員免許や保育士資格を取得するために、さらには、自らの目的を達成して自己実現を図るために、本学の学生として必要な基本的な事項が載せてあります。オリエンテーションの機会に限らず、折に触れて目を通してながら学生生活の参考にして欲しいと思います。

皆さんの自己を高めてゆく努力に対しては、教員や学生サービスセンターの職員が一体となって応援していきます。少子化時代を迎えた今、より一層重要になった子どもへの教育、保育に加えて、保護者に対する子育て支援も求められています。皆さんが社会から期待され、求められる有用な人材となれるよう期待しております。

2010年度 SYLLABUS 目次

1 年 生

◆◆◆◆◆ 1. 基礎科目 (必修) ◆◆◆◆◆

フレッシュマン・セミナー	木全 晃子・木村 たか子・森 静子・吉川 由香子	7
日本語表現 I	吉川 由香子	8
英語コミュニケーション	レオナルド・バロウ	9
コンピュータ	森川 恵	10
基礎体育 (講義)	武井 博	11
基礎体育 (実技)	武井 博	12

◆◆◆◆◆ 2. 教養科目 (選択) ◆◆◆◆◆

児童文学	阿部 肇	13
歴史	佐藤 純子	14
美術	小林 亜起子	15
心理学	松田 侑子	16
社会学	川島 良雄	17
日本国憲法	村木 保久	18
自然科学概論	関根 和伯	19
生涯学習概論	木全 晃子	20

◆◆◆◆◆ 3. 専門科目 ◆◆◆◆◆

◆◆◆◆◆ (1) 教科に関する科目 ◆◆◆◆◆

国語	吉川 由香子	21
算数	鈴木 勝雄	22
生活	吉川 由香子	23
音楽	乙部 はるひ	24
器楽 I	乙部 はるひ・古谷 和子・渡邊 知恵子・久保田 和子・浜崎 有香	25
声楽	茂木 夕起子	26
アンサンブル A	乙部 はるひ	27
アンサンブル B	乙部 はるひ	28
図工	吉村 虬	29
体育	武井 博	30

◆◆◆◆◆ (2) 教職に関する科目 ◆◆◆◆◆

初等教育原理	鈴木 勝雄	31
保育原理 I	森 静子	32
教育・保育方法論	木全 晃子	33
保育内容総論	新井 れ江子	34
保育内容・健康	尾内 萬喜枝	35
保育内容・環境	関根 和伯	36
保育内容・表現 I	阿部 肇	37
保育内容・表現 II	森 静子・新井 れ江子・塚越 亜希子	38
乳幼児心理学	濱田 祥子	39
教育実習指導	新井 れ江子・木全 晃子・塚越 亜希子	40

◆◆◆◆◆ (3) 保育士科目 ◆◆◆◆◆

児童福祉 I	川島 良雄	41
養護原理	川島 良雄	42
小児保健 I	柳田 悦子	43
乳児保育 I	木村 たか子	44
保育実習指導 I	森 静子・木村 たか子・濱田 祥子・塚越 亜希子	45

2 年 生

◆◆◆◆ 1. 基礎科目 (必修) ◆◆◆◆

ソフォモア・セミナー	新井 れ江子・乙部 はるひ・川島 良雄・松田 侑子……………	47
日本語表現Ⅱ	吉川 由香子……………	48

◆◆◆◆ 2. 教養科目 (選択) ◆◆◆◆

児童文学	阿部 肇……………	13ページ参照
歴史	佐藤 純子……………	14 /
美術	小林 亜起子……………	15 /
心理学	松田 侑子……………	16 /
社会学	川島 良雄……………	17 /
日本国憲法	村木 保久……………	18 /
自然科学概論	関根 和伯……………	19 /
生涯学習概論	木全 晃子……………	20 /
児童英語A	レオナルド・パロウ……………	49
児童英語B	レオナルド・パロウ……………	50

◆◆◆◆ 3. 専門科目 ◆◆◆◆

◆◆◆◆ (1) 教科に関する科目 ◆◆◆◆

器楽Ⅱ	乙部 はるひ・古谷 和子・渡邊 知恵子・久保田 和子・茂木 夕起子…	51
幼児体育	武井 博……………	52

◆◆◆◆ (2) 教職に関する科目 ◆◆◆◆

教師・保育者論	新井 れ江子……………	53
教育心理学	松田 侑子……………	54
発達心理学	松田 侑子……………	55
障害児教育・保育	濱田 祥子……………	56
教育法規	鈴木 勝雄……………	57
学級経営	鈴木 勝雄……………	58
教育技術	木全 晃子……………	59
保育内容・人間関係	濱田 祥子……………	60
保育内容・言葉	塚越 亜希子……………	61
保育内容・表現Ⅲ	吉川 由香子……………	62
教育相談	松田 侑子……………	63
総合演習	森 静子・新井 れ江子・木村 たか子・木全 晃子……………	64

◆◆◆◆ (3) 保育士科目 ◆◆◆◆

社会福祉論	川島 良雄……………	67
社会福祉援助技術	渡辺 敏正……………	68
小児保健Ⅱ	柳田 悦子……………	69
小児保健実習	小池 佐智子……………	70
小児栄養	水野 三千代……………	71
精神保健	渡辺 敏正……………	72
家族援助論	木全 晃子……………	73
養護内容	川島 良雄……………	74
保育実習指導Ⅱ	森 静子・木村 たか子・濱田 祥子・塚越 亜希子……………	75
保育原理Ⅱ	木村 たか子……………	76
臨床心理学	松田 侑子……………	77
乳児保育Ⅱ	木村 たか子……………	78

補 足 説 明

1 履修区分（関東短期大学履修及び試験規程第5条）

- (1) 必修科目…必ず履修しなければならない科目
- (2) 選択必修科目…あるグループの中から定められた単位を履修しなければならない科目
- (3) 選択科目…自由に選んで履修をする科目

2 授業形態

- (1) 講義：教員が教科書等を用い学生に説明しながら授業を進める科目
- (2) 演習：教員が講義するとともに、学生が討論、研究発表等を行いながら、教員の指導のもとに授業を進める科目
- (3) 実習：学んだ知識をもとに実地（実物）について学習する教育実習等の科目
- (4) 実技：学んだ知識をもとに実技を行う体育、音楽科の科目

3 期間

- (1) 通年：1年間授業を受けるもの（授業計画30週）
- (2) 半期：「前期」又は「後期」のみ授業を受けるもの（授業計画15週）

1 年 生

1. 基礎科目 (必修)

基礎科目

注：履修希望・登録及び授業計画の出席・理解は学生の記入欄とする。

科目名	フレッシュマン・セミナー			担当者	木全 晃子・木村たか子 森 静子・吉川由香子	
対象学年	履修区分	授業形態	単位数	期間	履修希望	履修登録
1年	必修	演習	1	通年	YES NO	YES NO
講義の概要	概要：幼稚園教諭・保育士を目指す学生の基本的な生活態度、大学における修学方法を学ぶ。さらに教員や保育者としての望ましいあり方、子どもを取り巻く社会環境などを学習しながら、学生一人一人の資質を高めるよう各担任による個別指導や全体指導を行う。					
	教育目標：1. 大学における生活及び修学方法等を学ぶ。2. 幼稚園教諭・保育士に相応しい生活・学習態度を学ぶ。3. 専門職とし、絶えず専門性を高めていくことができるよう生涯学習の基礎を形成する。 学習成果の達成度：大学生としての生活及び学習方法を身に付ける。専門職として生涯学習の基礎を形成する。					
授業計画	週	内 容			出席	理解
	1 30	以下の内容を踏まえ、学年統一内容、各クラス独自の内容、個別指導などで進める。 <内容> 1. こども学科学生としてのあり方 2. キャリア形成 ①人はなぜ働くのか ②自分を知る ③適性とキャリア選択 ④職業世界を知る ⑤就職活動の流れを理解する ⑥働くときに知っておきたい法律・制度 3. 幼稚園教諭の仕事を理解する 4. 保育士の仕事を理解する 5. こどもと家庭を取り巻く社会環境について理解する 6. 児童虐待について学ぶ 7. 幼稚園教諭・保育士としての基礎的能力を高める 8. 個別面接（困りごと、進路等） 9. まとめ				
成績評価	授業への参加状況、レポート等を総合評価する。					
テキスト	なし					
その他	参考文献：悠木そのま著「みんなのキャリアデザイン になりたい自分になるために」文芸社 菊池信一著「キャリアデザイン入門」光生館					

基礎科目

注：履修希望・登録及び授業計画の出席・理解は学生の記入欄とする。

科目名	日本語表現Ⅰ			担当者	吉川由香子		
対象学年	履修区分	授業形態	単位数	期間	履修希望	履修登録	
1年	必修	演習	1	半期	YES NO	YES NO	
講義の概要	<p>概要：日本語の音声と文章における表現力やコミュニケーション能力を培い、運用能力を身に付ける。また、漢字、敬語、文法、語彙など、日本語の総合的なトレーニングを行う。</p> <p>教育目標：正しい日本語を身に付ける。</p> <p>学習成果の達成度：実習先での、日誌・記録など日常的な文章の読み書き、レポート、小論文の書き方の基本を取得できる。</p>						
授業計画	週	内 容				出席	理解
	1 2 3 4～6 7 8 9 10 11 12 13・14 15	<p>ガイダンス</p> <p>言語表現の基本について</p> <p>語彙と漢字の学習について</p> <p>基礎レッスンの方法—音声表現 文章表現</p> <p>レポートの書き方</p> <p>小論文の書き方</p> <p>正確な表記について</p> <p>推敲について</p> <p>編集について</p> <p>小論文のための情報収集</p> <p>論文を書く</p> <p>まとめ</p>					
成績評価	受講状況、提出物、論述テスト						
テキスト	『日本語表現のレッスン』（教育出版）						
その他	『日本語検定』練習問題集（日本語検定委員会／東京書籍）						

基礎科目

注：履修希望・登録及び授業計画の出席・理解は学生の記入欄とする。

科目名	英語コミュニケーション			担当者	レオナルド・バロウ		
対象学年	履修区分	授業形態	単位数	期間	履修希望	履修登録	
1年	必修	演習	2	通年	YES NO	YES NO	
講義の概要	<p>概要：このコミュニケーションコースでは、読み書きが多少ありますが、特にスピーキングに重きを置いて進めていきます。グループワークやペアワークがたくさんありますので、出来るだけ積極的に参加してください。</p> <p>教育目標：様々なシチュエーションの中で英語を理解し、簡単なよく使われている表現により応答できることが、このコースの目標です。</p> <p>学習成果の達成度：</p>						
授業計画	週	内 容				出席	理解
	1 2 3 4～5 6～7 8～9 10 11～12 13 14 15 16～17 18 19～20 21～22 23 24 25～26 27～28 29 30	<p>Course Introduction / Classroom English / Personal Introduction</p> <p>Personal Information</p> <p>Dates and Times</p> <p>Actions</p> <p>Likes and dislikes : Hobbies and Abilines</p> <p>Daily Routines : Frequency</p> <p>Consolidation Unit</p> <p>Describing Locations : in a house / in the city</p> <p>Asking for and Giving Directions</p> <p>Describing Things</p> <p>Review / Test</p> <p>Describing People : Appearances / Personality</p> <p>Family / Occupations</p> <p>The Past : Weekends and Vacations / Life Events</p> <p>The future : Hopes and Goals / Weekend Plans</p> <p>Making Plans to Meet</p> <p>At the Doctor's office : Illness and symptoms</p> <p>Shopping : Clothing / Bargaining</p> <p>Restaurant Language</p> <p>Buying a Ticket : Train / Bus</p> <p>Consolidation Unit</p>					
成績評価	Test / Classwork and Parncipation / Attendance						
テキスト	Side by Side Book 1-Longman : ISBN 0-13-026744-9						
その他	Handouts						

基礎科目

注：履修希望・登録及び授業計画の出席・理解は学生の記入欄とする。

科目名	コンピュータ			担当者	森川 恵	
対象学年	履修区分	授業形態	単位数	期間	履修希望	履修登録
1年	必修	演習	2	通年	YES NO	YES NO
講義の概要	<p>概要：コンピュータ教室における実習形式の授業。実務に役立つ文書の作成などを中心に学習する。</p> <p>教育目標：社会的基盤となる Windows パソコンの操作技術を習得するとともに、ネットワーク、インターネットを活用した総合的な情報リテラシー能力を養成する。</p> <p>学習成果の達成度：ワープロソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトを利用した文書作成やネットワーク活用などの実践的な学習を通し、小学校、幼稚園、保育園、各種施設などでの IT 化に対応する能力が身につく。</p>					
授業計画	週	内 容			出席	理解
	1～2	(前期) Windows の基本 ウィンドウと GUI、プログラムの起動、文字入力の基本				
	3～4	ネットワークコミュニケーション ネットワーク基礎知識 電子メールの利用方法 資料収集など学習に役立つインターネットの利用方法				
	5～6	ファイルとフォルダの管理、ファイル形式の理解 個人用フォルダ、共有フォルダ、拡張子				
	7～8	Microsoft Office の概要 Word や Excel、その他 Office ファミリーソフト				
	9～14	行事案内作成などに役立つ文書の装飾、レイアウト、印刷				
	15	まとめ (後期)				
	16～21	PowerPoint によるプレゼンテーション資料作成 プレゼンテーションに役立つ PowerPoint の活用と資料作成のポイント				
	22～27	Excel による表計算 名簿管理や成績処理などに役立つ計算式、関数、グラフ、データ管理				
	28～30	総復習・まとめ				
成績評価	出席状況、課題提出、試験により評価する。					
テキスト	授業時に教材プリントを配付する。教科書は特に指定しない。					
その他	B5版ノート（ルーズリーフ不可）、2穴式A4版ファイル、USBメモリ（1GB程度）は各自購入準備のこと。					

基礎科目

注：履修希望・登録及び授業計画の出席・理解は学生の記入欄とする。

科目名	基礎体育（講義）			担当者	武井博		
対象学年	履修区分	授業形態	単位数	期間	履修希望	履修登録	
1年	必修	講義・実技	1	通年	YES NO	YES NO	
講義の概要	<p>概要：体育の意味・定義の理解と各運動種目の特性・ルールを理解。</p> <p>教育目標：運動の基礎、技術・ルールを理解し、自己の健康生活に役立たせる。</p> <p>学習成果の達成度：運動技能や知識の向上とともに、指導法を学び能力を高める。</p>						
授業計画	週	内 容				出席	理解
		<ol style="list-style-type: none"> 1. 教養としての体育原理 <ul style="list-style-type: none"> ・ 体育における人間形成 ・ 体育の理念 ・ 体育とフェアプレイ ・ 体育と身体形成 ・ 技術指導から見た体育 ・ 体育と指導者 ・ 子どもからみた体育の存在意義 ・ 社会変化と今後の体育 2. 体力と健康 <ul style="list-style-type: none"> ・ 今日の体力と健康づくり ・ 運動と栄養 ・ 運動と健康づくり ・ 運動と体力づくり ・ トレーニング 3. 体育の学習指導法 <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習指導の形態 ・ 学習指導の過程 ・ 運動技術の指導法 ・ 学習における「つまずき」の診断と指導 4. 現代社会とレクリエーション <ul style="list-style-type: none"> ・ レクリエーションの意味・定義 ・ レクリエーションの語源 ・ レクリエーションの機能 ・ レクリエーションとレジャーのちがい 5. 生涯スポーツ <p>※理論講義は前期の初めと、運動種目の間そして後期の終わりに集中的に行う。</p>					
成績評価	実技試験、筆記試験、出席・受講態度を重視する。						
テキスト	プリントを適時配付する。						
その他							

基礎科目

注：履修希望・登録及び授業計画の出席・理解は学生の記入欄とする。

科目名	基礎体育（実技）			担当者	武井博		
対象学年	履修区分	授業形態	単位数	期間	履修希望	履修登録	
1年	必修	講義・実技	1	通年	YES NO	YES NO	
講義の概要	<p>概要：体育の意味・定義の理解と各運動種目の特性・ルールを理解。</p> <p>教育目標：運動の基礎、技術・ルールを理解し、自己の健康生活に役立たせる。</p> <p>学習成果の達成度：運動技能や知識の向上とともに、指導法を学び能力を高める。</p>						
授業計画	週	内 容				出席	理解
	1	前期					
	2	概要説明・講義					
	3	体ほぐし（ラート使用）					
	4	体ほぐし（ボール使用）					
	5	球技（バレーボール）					
	6	球技（バレーボール）					
	7	球技（バレーボール）					
	8	球技（バレーボール）（実技試験）					
	9	講義（理論）					
	10	講義（理論）					
	11	球技（硬式テニス）					
	12	球技（硬式テニス）					
	13	球技（硬式テニス）					
	14	球技（硬式テニス）					
	15	球技（硬式テニス）（実技試験）					
	16	後期					
	17	球技（バドミントン）					
	18	球技（バドミントン）					
	19	球技（バドミントン）					
	20	球技（バドミントン）（実技試験）					
	21	講義（理論）					
	22	講義（理論）					
	23	球技（バスケットボール）					
	24	球技（バスケットボール）					
	25	球技（バスケットボール）					
	26	球技（バスケットボール）					
	27	球技（バスケットボール）（実技試験）					
	28	講義（理論）					
	29	講義（理論）					
	30	講義（まとめ）					
成績評価	実技試験、筆記試験、出席・受講態度を重視する。						
テキスト	プリントを適時配付する。						
その他							

2. 教養科目 (選択)

教 養 科 目

注：履修希望・登録及び授業計画の出席・理解は学生の記入欄とする。

科目名	児童文学〈童話・絵本〉			担当者	阿 部 肇		
対象学年	履修区分	授業形態	単位数	期 間	履修希望	履修登録	
1・2年	選択	講義	2	半期	YES NO	YES NO	
講義の概要	<p>概要：こどもたちは、それぞれの年齢に応じて、物語の中に自分の気持ちを移入し、主人公といっしょに様々な体験をします。それによりたくさんの興味や関心を持ちます。登場人物のいろいろな考え方や行動に触れることは、発達段階のこどもたちにとって、とても重要なことです。この授業では、ナンセンスからシリアスまで各ジャンルの本を紹介し、その魅力にせまっていきたいと思っています。</p> <p>教育目標：この授業をきっかけに、幼・保の現場で役立つように、絵本や童話に興味を持たせる。</p> <p>学習成果の達成度：物語の内容を把握し、それを、あらすじとしてまとめ、理解する。</p>						
授業計画	週	内 容				出席	理解
	1	こどもと童話・絵本のかかわりについて					
	2	読み聞かせと解説（おにたのおめん・くるみ）					
	3	文学としての童話・絵本とは					
4	読んで理解する上でのポイント						
5～9	名作童話・絵本の考察と理解 （大人の目であらためて読んでみよう） 〈海外の物語〉 ・グリム（白雪姫・おおかみと7ひきのこやぎ・他） ・アンデルセン（マッチ売りの少女・みにくいあひるのこ・他） ・イソップ（ライオンをたすけたねずみ・ありときりぎりす・他）						
10～12	〈日本の物語〉 ・つるのおんがえし ・いなばの白ウサギ ・花さかじいさん／他						
13～15	〈現代の童話・絵本〉 ・おおきな木 ・すてきな三にんぐみ ・100万回生きたねこ／他						
成績評価	総合評価（授業態度、出席状況、レポート）						
テキスト	適宜プリント配付						
そ の 他	授業内で紹介できる本数は限られてしまいます。なるべく日常でも、図書館等で本にふれてください。						

教養科目

注：履修希望・登録及び授業計画の出席・理解は学生の記入欄とする。

科目名	歴 史			担当者	佐藤純子		
対象学年	履修区分	授業形態	単位数	期 間	履修希望	履修登録	
1・2年	選択	講義	2	半期	YES NO	YES NO	
講義の概要	<p>概要：皆さんがよく知っている童謡や唱歌は、いつ頃できたのでしょうか。実は明治・大正・昭和初期に作られたものが多いのです。この授業では、明治以降の日本の歩みを当時の記録、映像を用いながらわかりやすく考えます。</p> <p>教育目標：日本近現代史の政治・外交・経済・文化に関する基本的知識を身につけます。</p> <p>学習成果の達成度：童謡・唱歌、お菓子、玩具など身近なものから、暗記ではない歴史を楽しみながら学ぶことができます。また、物事の背景を理解する力や深く考える力が得られます。</p>						
授業計画	週	内 容				出席	理解
	1	近代化の道1 明治維新と政府					
	2	近代化の道2 憲法の制定					
	3	近代化の道3 条約改正交渉					
	4	東アジアのなかの日本1 日清戦争					
	5	東アジアのなかの日本2 日露戦争					
	6	明治・大正期の社会と文化					
	7	国際協調の時代1 第一次世界大戦とアジア					
	8	国際協調の時代2 ワシントン体制					
	9	昭和初期の社会と文化					
	10	昭和初期の政党政治					
	11	孤立する日本1 満州事変の勃発					
	12	孤立する日本2 政党政治の終焉					
	13	孤立する日本3 国際連盟脱退と日中戦争					
	14	第二次世界大戦の勃発					
	15	国際社会への復帰					
成績評価	総合評価（出席状況、小レポート、定期試験）						
テキスト	授業中に適宜プリントを配付						
その他	毎回の授業で、その時代に誕生した歌・おもちゃ・お菓子などを紹介していきます。						

教 養 科 目

注：履修希望・登録及び授業計画の出席・理解は学生の記入欄とする。

科目名	美 術			担当者	小 林 亜起子		
対象学年	履修区分	授業形態	単位数	期 間	履修希望	履修登録	
1・2年	選択	講義	2	半期	YES NO	YES NO	
講義の概要	<p>概要：子どもと美術を楽しむために必要な広い知識を学びます。16世紀～18世紀のフランス美術の大きな流れを、代表的な宮殿装飾、絵画、工芸作品などのスライドを用いて、たどっていきます。</p> <p>教育目標：近代フランス美術の知識習得を通じて、西洋美術のエッセンスを理解することを目指します。</p> <p>学習成果の達成度：講義を通じて、豊かな美術表現を理解する目を養い、美術の見方の基本を習得します。</p>						
授業計画	週	内 容				出席	理解
	1	オリエンテーション					
	2	絵画の見方について					
	3	ルネサンスの美術（フォンテーヌブロー宮殿）					
	4	バロックの美術（ヴェルサイユ宮殿）					
	5	ロココの絵画1（アントワヌ・ヴァトー）					
	6	ロココの絵画2（フランソワ・ブーシェ）					
	7	ロココの工芸美術（ゴブラン織り、ボーヴェ織りのタピスリー）					
	8	18世紀フランスのファッション					
	9	18世紀の宮廷女性と美術1（ボンパドゥール夫人）					
	10	18世紀の宮廷女性と美術2（マリー・アントワネット）					
	11	フランス革命期の美術（ジャック＝ルイ・ダヴィッド）					
	12	ルーヴル美術館の歴史とコレクションについて					
	13	日本の美術館におけるフランス近代絵画のコレクションについて					
	14	フランス美術に関する展覧会の紹介					
	15	まとめ					
成績評価	年間を通じて授業中の平常点で評価を行う。						
テキスト	特に指定しません。						
その他							

教養科目

注：履修希望・登録及び授業計画の出席・理解は学生の記入欄とする。

科目名	心 理 学			担当者	松 田 侑 子		
対象学年	履修区分	授業形態	単位数	期 間	履修希望	履修登録	
1・2年	選択	講義	2	半期	YES NO	YES NO	
講義の概要	<p>概要：心理学とは人のこころの働きを科学的に解明しようとする学問です。</p> <p>教育目標：目に見えない「こころ」について、どのようなことがわかっているのかを学び、日常生活の中で役立てたり、人間についての理解を深めたりすることを目指す。</p> <p>学習成果の達成度：人のこころについて幅広い知識を得、人間全体に対してより深い興味を持てることを目指す。</p>						
授業計画	週	内 容				出席	理解
	1	心理学の歴史					
	2	学習：条件づけなど					
	3	記憶：短期記憶・長期記憶、保持と忘却					
	4	言語：言語の獲得と機能など					
	5	思考：問題解決・概念形成					
	6	動機づけ：欲求、フラストレーション					
	7	感情・情動：情動の喚起など					
	8	パーソナリティ：特性論と類型論、性格検査					
	9	知能：知能の構造、知能検査					
	10	発達：発達の規定因など					
	11	社会：態度、集団行動、対人関係					
	12	臨床：心理療法など					
	13	健康とストレス：ストレスへの反応と対処					
	14	家族：家族関係など					
	15	まとめ					
成績評価	出席状況、定期試験						
テキスト	レジュメを配付予定						
その他							

教 養 科 目

注：履修希望・登録及び授業計画の出席・理解は学生の記入欄とする。

科目名	社 会 学			担当者	川 島 良 雄		
対象学年	履修区分	授業形態	単位数	期 間	履修希望	履修登録	
1・2年	選択	講義	2	半期	YES NO	YES NO	
講義の概要	<p>概要：社会学は、“人間の生活・社会生活”をキーワードとする社会科学の1分野である。この講義では、社会と個人の関係、家族及び地域社会、社会構造と社会問題、社会学と社会福祉の関係についての基礎的な理解を図る。</p> <p>教育目標：社会、社会構造と社会問題、組織と個人、社会学と社会福祉の関係についての基礎的な理解を図る。</p> <p>学習成果の達成度：人間が日常生活を送っている「社会」とは何であるかという問題意識を持って学び、仕事をし、生活することができる。</p>						
授業計画	週	内 容				出席	理解
	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15	社会学とは何か ライフコースと家族 地域社会① 地域社会② 現代社会の変動① 現代社会の変動② ライフスタイルと文化システム 組織とネットワーク① 組織とネットワーク② 社会参加 社会調査と現実理解 社会問題と差別① 社会問題と差別② 社会的価値の変遷と人権保障 まとめ（社会福祉と社会学）					
成績評価	授業への参加状況（発表・発言）、レポートを総合評価する。						
テキスト	岩上真珠・川崎賢一・藤村正之・要田洋江編 社会福祉基礎シリーズ③「ソーシャルワーカーのための社会学」有斐閣						
その他	参考文献：古城敏明・矢沢修次郎編 現代社会論〔新版〕有斐閣						

教養科目

注：履修希望・登録及び授業計画の出席・理解は学生の記入欄とする。

科目名	日本国憲法			担当者	村木保久		
対象学年	履修区分	授業形態	単位数	期間	履修希望	履修登録	
1・2年	選択 教職必修	講義	2	半期	YES NO	YES NO	
講義の概要	<p>概要：学生との対話を通じて「分かる」ことを重視した講義をします（分からない講義は教えられる側にも教える側にも無駄）。基本的な法の知識や法律用語についても解説し、また、歴史的な事件、映画やマスコミで取り上げられた話題などを通して私たちの憲法を説明します。ただし、学生に一定の努力は求めます。</p> <p>教育目標：憲法を身近なものとして感じ、「分かる」ことを目的とします。 「日本国憲法」は前文と103箇条の条文からできていますが、わたしたちの国の基本的な設計図です。そこにはこの国の目的（「個人の尊厳」を維持し強化すること）とその実現手段（国民の権利や国の基本的な仕組み）とが書かれています。限りある時間のなかで憲法に込められた知識や知恵を学んでもらい、さらに法的なものの方角も知ってもらいたいと思います。</p> <p>学習成果の達成度：憲法改正のための法律ができて憲法の改正を最終的に決定するのは国民です。改正は将来のこの国の人々にも影響しますから、改正の賛否にかかわらず、国民がいまの憲法を知ることが不可欠の前提のはずです。また教育にたずさわろうとする人たちにとって、子どもたちが育つ国家が何を理想とするのかを知ることが、教育の重要な指針のひとつでもあります。</p>						
授業計画	週	内 容				出席	理解
	1	講義の概要（シラバスの解説）、「憲法」という言葉さらに「近代憲法」の意味。その誕生の歴史的な背景					
	2	「現代憲法」の特徴。「モダン・タイムス」で知るその背景					
	3	「個人主義」、憲法の基本的な立場。「利己主義」との差異					
	4	「個人の尊厳」、憲法の目指すもの（理念）					
	5	「憲法の基本原理」、憲法の理念を支える4本柱					
	6	「国民主義」、この国の所有者（主権者）は誰なのか。					
	7	「国民主義」、国民と外国人とは憲法上どう違うのか。					
	8	外国人の参政権をめぐる問題					
	9	「人権」、誰と誰とのあいだで主張できるものなのか。					
	10	「人権」、条文に書かれた人権の意味					
	11	条文に書かれていない個人の重要な利益の保護					
	12	「人権」、人権はどのような場合どこまで保護されるのか。					
	13	「人権」、手続を人権として保障する意味・目的はなにか。					
	14	「統治機構」、「絶対的な権力は絶対的に腐敗堕落する」					
	15	「統治機構」、立法・行政・司法の相互関係					
			議院内閣制と三権分立制				
		「平和」、9条の理解、自衛権とその手段					
		「政治的問題」の法理					
		「改正」、その範囲と限界					
		「最高法規」、憲法の自己防衛手段とその仕組み					
		憲法違反の国（政府）の行為は排除されなければならない。					
		※講義は概ねこの計画にそって進行しますが、限りある時間のなかで憲法全体を立体的に理解してもらうために順序が入れ替わることがあります。					
成績評価	出席、出席態度及び試験で評価します。						
テキスト	レジュメを配付します。参考文献については講義のなかで紹介します。						
その他	私語など受講者の妨害になる行為をした者には退出を命じることがあります。						

教 養 科 目

注：履修希望・登録及び授業計画の出席・理解は学生の記入欄とする。

科目名	自然 科 学 概 論			担当者	関 根 和 伯		
対象学年	履修区分	授業形態	単位数	期 間	履修希望	履修登録	
1・2年	選択	講義	2	半期	YES NO	YES NO	
講義の概要	<p>概要：この授業では「自然環境論」を学びます。地球は生命全体の子孫からの「預かり物」です。この「水の惑星」地球が今、まさにSOS発信をしています。それが「地球温暖化」です。ここに至った自然環境破壊の実態を理解しながら、どのようにして「温暖化」をくい止めるかを学び、実践してください。私達がこれから授かる、分担することも達のために。</p> <p>教育目標：地球環境の現実を理解してCO₂削減等を実践する力を育むと共に児童・生徒に対しての正しい指導力を養う。</p> <p>学習成果の達成度：</p>						
授業計画	週	内 容				出席	理解
	1	自然科学の発達と人口増加、そして宇宙船地球号のSOS発信					
	2	「国栄えても山河なし」、日本の自然環境の推移					
	3	「川離れ」が増長させた川破壊、川汚濁					
	4	川虫から川を読む Dry Lab.1「大田市八瀬川」の環境影響評価					
	5	「豊かさ」の代償となった「アオコ」漂う故郷の湖沼					
	6	魚から城沼を読む Dry Lab.2「城沼」の環境影響評価1					
	7	アカムシから城沼を読む Dry Lab.3「城沼」の環境影響評価2					
	8	人類の叡智、合成物質と生物濃縮の悲劇 水鳥激減事故と水俣病					
	9	「終わりになき不知火海の嗚咽」の輪読、および未解決問題の背景等のディベート					
	10	酸っぱい雨「空中鬼」と地球規模で拡大する大気汚染					
	11	「テロより怖い温暖化」、明日を待てない地球温暖化の現況					
	12	地球の生命線、消え行く熱帯林					
	13	「地球温暖化」に対して、私達はどのような行動が出来るか					
	14	地球に広がる「水争い」、「食糧の枯渇」、そして明日の「地球号」の命運は					
	15	まとめ 次世代に「生」を託すための Think Globally Act Locally					
成績評価	試験、出席状況、提出物（実習レポート・ドライラボ）から総合評価						
テキスト	なし。講義時に適時資料を配付する。						
その他	随時、授業終了時にノートの提出を求める予定						

教養科目

注：履修希望・登録及び授業計画の出席・理解は学生の記入欄とする。

科目名	生涯学習概論			担当者	木全晃子		
対象学年	履修区分	授業形態	単位数	期間	履修希望	履修登録	
1・2年	選択	講義	2	半期	YES NO	YES NO	
講義の概要	<p>概要：人間一人ひとりに、生涯を通した学習・発達の姿が見られることを理解するとともに、幼児期の重要性を理解する。更に、従来の子ども期を想定した教育学（pedagogy）と成人期の教育学（andragogy）とを対比的に考察し、“学習支援”という視点から教育を考えていく。</p> <p>教育目標：私たちは急速に変化する現代社会に生きており、国際（化）・情報（化）社会に対応できる「世界の中の日本人」、「生きる力」を備えた一人ひとりであることが求められている。そのためには学校教育だけに止まらず、誕生から死まで、全生涯を通じて、様々な場面で人と人が学び合っていくことの意味を再確認し、生涯学習という視点から私たちの生活を見直す必要がある。本授業では歴史的・社会的な面から生涯学習論を解説し、生涯学習社会における教師の役割を考察する。</p> <p>学習成果の達成度：生涯学習が唱えられるようになった経緯と意義を理解できたか。家庭教育・学校教育・地域社会の教育（社会教育）全体をとらえる視点をもち、他者・他機関と連携できる知識・力量を身につけることができたか。</p>						
	週	内 容				出席	理解
授業計画	1	ガイダンス—教育とは何か（広義の教育と狭義の教育）					
	2	生涯学習の基本的概念					
	3	日本における「社会教育」の発展					
	4	生涯教育論から生涯学習論へ					
	5	生涯学習社会とは					
	6～7	社会教育・生涯学習の方法					
	8	生涯発達とエイジング					
	9	成人教育（andragogy）における学習者理解と学習支援					
	10	近年の生涯学習政策					
	11	教育機関と地域・家庭との連携					
	12	コミュニティ・ワーク					
	13	学びと社会参加					
	14	教師・保育者の生涯学習					
	15	まとめ					
	成績評価	提出物・受講状況から総合的に評価する。					
テキスト	関口礼子他・著『新しい時代の生涯学習』（有斐閣）						
その他							

3. 專 門 科 目

(1) 教科に関する科目

注：履修希望・登録及び授業計画の出席・理解は学生の記入欄とする。

科目名	国 語			担当者	吉 川 由香子		
対象学年	履修区分	授業形態	単位数	期 間	履修希望	履修登録	
1年	選択	講義	2	半期	YES NO	YES NO	
講義の概要	<p>概要：国語（日本語）に関する基礎的基本的な知識を分析的視点より探求する。 講義のほかに、毎回、音読や言語事項の演習を行う。</p> <p>教育目標：聞く、話す、読む、書く、の基本から、声の表現、文章の創作、プレゼンテーションの方法まで総合的な表現力を身につける。</p> <p>学習成果の達成度：基礎的に学んだ内容をさらに深め、日本語の持つ深みや美しさを知り、正しい日本語を習得することの意義と楽しさを味わう。</p>						
授業計画	週	内 容				出席	理解
	1	オリエンテーション					
	2	言語行動、言語生活					
	3	表現活動と理解活動					
	4	音読					
	5	読解					
	6	スピーチ					
	7	言葉遊び					
	8	日本語の特徴					
	9	戯曲					
	10	古典					
	11	朗読劇とは					
	12	朗読劇上演					
	13	人間関係に働きかける言葉					
	14	会話とコミュニケーション					
	15	まとめ					
成績評価	受講状況、提出物、テスト						
テキスト	指定しない。						
その他							

注：履修希望・登録及び授業計画の出席・理解は学生の記入欄とする。

科目名	算 数			担当者	鈴 木 勝 雄		
対象学年	履修区分	授業形態	単位数	期 間	履修希望	履修登録	
1 年	選択	講義	2	半期	YES NO	YES NO	
講義の概要	<p>概要：算数科における基礎的な知識と技能を身に付け、事象を数理的に考えるよう、新小学校学習指導要領によって講義する。</p> <p>教育目標：算数科の基礎理解を身につける。</p> <p>学習成果の達成度：教師としての数理的理解の向上を図る。</p>						
授業計画	週	内 容				出席	理解
	1	算数科改訂の趣旨と要点					
	2	算数科の目標及び内容・その1「数と計算」					
	3	算数科の内容・その2「量と測定」					
	4	算数科の内容・その3「図形」					
	5	算数科の内容・その4「数量関係」					
	6	第1学年の内容					
	7	第2学年の内容					
	8	第3学年の内容					
	9	第4学年の内容・その1					
	10	第4学年の内容・その2					
	11	第5学年の内容・その1					
	12	第5学年の内容・その2					
	13	第6学年の内容・その1					
	14	第6学年の内容・その2					
	15	まとめ・「算数とは・・・！」					
成績評価	レポート、筆記試験、出席状況等により総合判定する。						
テキスト	「講義プリント」や教育関係の資料等を毎回配付し、講義する。						
その他	レポートなどの提出を求め、各自の学習状況の様子を最重要視する。						

注：履修希望・登録及び授業計画の出席・理解は学生の記入欄とする。

科目名	生 活			担当者	吉 川 由香子		
対象学年	履修区分	授業形態	単位数	期 間	履修希望	履修登録	
1年	選択	講義	2	半期	YES NO	YES NO	
講義の概要	<p>概要：幼児期にふさわしい教育や保育内容とは何かという基本概念を学び、小学校教育の「生活科」との連携を大切にしたい、具体的な学習展開を考察し、その表現活動の演習も行う。</p> <p>教育目標：「生きる力」を育むために支援しなければならない、様々な幼児期の遊びや生活の内容、またその育成指導法を学ぶ。</p> <p>学習成果の達成度：遊びや生活など、子どもの主体的な体験活動を中心とする指導方法を身に付けることができ、幼稚園・保育所の総合的な指導に役立てることができる。</p>						
授業計画	週	内 容				出席	理解
	1	オリエンテーション					
	2	幼稚園教育と生活科の連携について					
	3	生活カリキュラムの作り方					
	4	生活カリキュラムの作成					
	5	生活教材作り ①幼児の主体的な遊び					
	6	〃	②具体的な生活体験				
	7	〃	③個性を生かす遊び				
	8	〃	④知的発達を促す遊び				
	9	〃	⑤コミュニケーション能力をつける遊び				
	10	劇遊びのやり方 ①ペープサート					
	11	〃	②バクバク人形				
	12	創造的なゲーム作り					
	13	具体的な学習展開の取り組み①					
	14	〃	②				
	15	まとめ					
成績評価	出席状況、発表、提出物						
テキスト	別途指示する。						
その他	みずみずしい感性で臨むこと。						

注：履修希望・登録及び授業計画の出席・理解は学生の記入欄とする。

科目名	音 楽			担当者	乙 部 はるひ		
対象学年	履修区分	授業形態	単位数	期 間	履修希望	履修登録	
1年	選択	演習	2	半期	YES NO	YES NO	
講義の概要	<p>概要：音楽鑑賞をしながら、基本的な音楽史、音楽理論を学び、音楽についての理解を深める。</p> <p>教育目標：名曲を鑑賞し、背景にある歴史や、楽典の基礎知識を学習する。</p> <p>学習成果の達成度：楽譜が理解できるようになり、基本的な音楽知識が身につく。</p>						
授業計画	週	内 容				出席	理解
	1 2～3 4～5 6～7 8～9 10～11 12～13 14 15	<p>オリエンテーション</p> <p>譜表と音名／バロック音楽鑑賞と音楽史</p> <p>音符と休符</p> <p>リズムと拍子／古典派の音楽鑑賞と音楽史</p> <p>音程</p> <p>音階／ロマン派の音楽鑑賞と音楽史</p> <p>和音</p> <p>速さ・強さに関する表示法／20世紀の音楽鑑賞と音楽史</p> <p>曲想・奏法に関する表示法／日本の音楽鑑賞と音楽史</p>					
成績評価	出席と試験によって総合的に評価を行う。						
テキスト	使用せず、プリントを配付する。						
その他	五線紙は必ず持参して、授業に参加してください。						

注：履修希望・登録及び授業計画の出席・理解は学生の記入欄とする。

科目名	器 楽 I			担当者	乙部はるひ・古谷 和子 渡邊知恵子・久保田和子 浜崎 有香		
対象学年	履修区分	授業形態	単位数	期 間	履修希望	履修登録	
1年	必(幼・保)	演習	2	通年	YES NO	YES NO	
講義の概要	<p>概要：個人レッスンによりピアノ演奏の基礎技術を習得する。</p> <p>教育目標：バイエル練習曲100番までと、童謡伴奏の習得を目指す。</p> <p>学習成果の達成度：幼稚園や保育園におけるピアノ伴奏の基礎力が身に付く。</p>						
授業計画	週	内 容				出席	理解
	1 2～13 14 15～16 17 18～29 30 31～32	<p>オリエンテーション、各自練習してきた曲を演奏する</p> <p>課題曲のレッスンを行う</p> <p>前期試験</p> <p>課題曲のレッスンを行う</p> <p>中間発表</p> <p>課題曲のレッスンを行う</p> <p>後期試験</p> <p>課題曲のレッスンを行う</p>					
成績評価	実技試験を評価する。						
テキスト	「全訳バイエルピアノ教則本」(全音楽譜出版社)、「簡易伴奏によるこどもの歌ベストテン」(ドレミ楽譜出版社)						
その他	必ず練習してきてください。						

注：履修希望・登録及び授業計画の出席・理解は学生の記入欄とする。

科目名	声 楽			担当者	茂 木 夕起子	
対象学年	履修区分	授業形態	単位数	期 間	履修希望	履修登録
1年	選択	演習	2	半期	YES NO	YES NO
講義の概要	<p>概要：様々なジャンルの曲を、斉唱や合唱しながら生き生きと歌う。</p> <p>教育目標：表現豊かな歌唱力の向上を目指し、実践的な曲を歌えるようにする。</p> <p>学習成果の達成度：1音でも声の音域を上げ、保育現場で必要な曲を、1曲でも多く歌えるようにして頂きたい。</p>					
授業計画	週	内 容			出席	理解
	1 2 / 16	<p>ガイダンス</p> <p>・表情筋の運動</p> <p>・発声……正しい声の出し方</p> <p>・ソルフェージュ……視唱、リズムトレーニング</p> <p>・多様なジャンルの声楽曲の歌唱・合唱</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・校歌、童謡 ・ホ・ホ・ホ（ふり付き） ・歌えバンバン ・赤いやねの家 ・大きな古時計 ・世界中の子供たちが ・ともだちになるために ・はじめの一歩 ・君をのせて ・さんぽ ・となりのトトロ ・世界がひとつになるまで ・切手のないおくりもの ・smile again ・この星に生まれて ・見上げてごらん 夜の星を ・虹のむこうに ・みんなともだち ・公園に行きましょう <p style="text-align: right;">等 他</p> </div> <p>※15週目…実技試験（独唱）</p>				
成績評価	出席状況、授業態度、実技試験（独唱）					
テキスト	「歌は、ともだち」（教育芸術社）、配付プリント					
その他	私語を慎み、心一つに素敵な歌を楽しく歌いましょう！					

注：履修希望・登録及び授業計画の出席・理解は学生の記入欄とする。

科目名	アンサンブル A			担当者	乙部 はるひ		
対象学年	履修区分	授業形態	単位数	期間	履修希望	履修登録	
1年	選択	演習	1	半期	YES NO	YES NO	
講義の概要	<p>概要：楽器を使って、幼児のための合奏、リトミック、また施設での音楽療法の初歩を学ぶ。</p> <p>教育目標：いろいろな楽器の奏法を学び、合奏やリトミック、ミュージックセラピーを行うことができるようにする。</p> <p>学習成果の達成度：いろいろな形態で、音楽遊びや発表会の指導ができるようになる。</p>						
授業計画	週	内 容				出席	理解
	1～4 5～6 7 8 9 10 11 12～14 15	<p>合奏：楽器の基本奏法・曲を合奏する・合奏譜をつくる</p> <p>ハンドベル</p> <p>リトミック</p> <p>音楽療法入門</p> <p>手作り楽器をつくる</p> <p>絵本に音楽をつける</p> <p>身体や楽器によるゲーム</p> <p>指導者としての感性を磨く：音マップづくり・幼児体験・五感を磨く</p> <p>グループ発表</p>					
成績評価	出席と授業中の実技内容により、総合的に評価を行う。						
テキスト	使用せず、プリントを配付する。						
その他	楽器庫の楽器を使います。グループ活動を行うので、欠席しないでください。						

注：履修希望・登録及び授業計画の出席・理解は学生の記入欄とする。

科目名	アンサンブル B			担当者	乙部 はるひ		
対象学年	履修区分	授業形態	単位数	期間	履修希望	履修登録	
1年	選択	演習	1	半期	YES NO	YES NO	
講義の概要	<p>概要：楽器を使って、幼児のための合奏、リトミック、また施設での音楽療法の初歩を学ぶ。(応用)</p> <p>教育目標：いろいろな楽器の奏法を学び、合奏やリトミック、ミュージックセラピーを行うことができるようにする。(応用)</p> <p>学習成果の達成度：いろいろな形態で、音楽遊びや発表会の指導ができるようになる。(応用)</p>						
授業計画	週	内 容				出席	理解
	1～4 5～6 7 8 9 10 11 12～14 15	<p>合奏：楽器の基本奏法・曲を合奏する・合奏譜をつくる (応用)</p> <p>ハンドベル (応用)</p> <p>リトミック (応用)</p> <p>音楽療法入門 (応用)</p> <p>手作り楽器をつくる (応用)</p> <p>絵本に音楽をつける (応用)</p> <p>身体や楽器によるゲーム (応用)</p> <p>指導者としての感性を磨く：音マップづくり・幼児体験・五感を磨く(応用)</p> <p>グループ発表</p>					
成績評価	出席と授業中の実技内容により、総合的に評価を行う。						
テキスト	使用せず、プリントを配付する。						
その他	楽器庫の楽器を使います。グループ活動を行うので、欠席しないでください。						

注：履修希望・登録及び授業計画の出席・理解は学生の記入欄とする。

科目名	図 工			担当者	吉 村 琥		
対象学年	履修区分	授業形態	単位数	期 間	履修希望	履修登録	
1 年	必修(幼保)	演習	2	半期	YES NO	YES NO	
講義の概要	<p>概要：幼児にとっての造形活動とは、子ども宇宙からのメッセージです。幼児の人格形成にとってかけがえのない活動であり、義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとして大切なものです。教師として輝いている子どもたちと出会い共感し、充実感を味わって欲しいものです。そのために演習を通して、基本的な表現材料や知識・技能を修得し指導方法を考察します。</p> <p>教育目標：「音楽、身体による表現、造形等に親しむことを通じて、豊かな感性と表現力の芽生えを養うこと」この目標を達成するために幼児の健やかな成長のために適切な環境を与えて、その心身の発達を助長することを目的とする。「生きる力」という理念の共有のもと、幼児の発達段階に応じて、基礎的・基本的な知識・技能について指導者としての修得を図り自己啓発に努める。</p> <p>学習成果の達成度：幼児の造形的な創造活動について主体的に問題意識を持ち、課題に取り組み適切な幼児の心身の発達や成長を理解・促し、自己の可能性を追求し指導者としての自己実現に向けて努力を惜しまない。</p>						
授業計画	週	内 容				出席	理解
	1	講義内容の説明・子どもにとっての造形活動とは					
	2	課題ファイル表紙デザイン					
	3	始めの一步・自分発見					
	4	折り紙ワールド・採用試験「表現テスト」に挑戦					
	5	幼児子どもの造形表現					
	6	基礎編「クレヨンにあいさつ」					
	7	初めての絵の具：水彩絵の具の使い方					
	8	「ミニトマトと野菜」を描く					
	9	表現材料の特性の理解と演習					
	10	子どもの絵は何を語るか・人類はなぜ絵をかくのか					
	11	言葉掛けの重要性について「子どもが育つ魔法の言葉」					
	12	色のはたらきについて「色の妖精」					
	13	花を描こう					
	14	子どもの絵が語るもの・食べ物を描く「かき氷」の表現					
	15	子どもの絵の発達：筋道…1					
16	表現材料の併用使用						
17	食べ物を描こう：「バームクーヘン」						
18	子どもの絵の発達：筋道…2						
19	様々な表現技法の活用						
20	「ケーキ屋さん」を描く						
21	デカルコマニー						
22	コラージュ 「花火大会」						
23	手作りおもちゃ						
24	「牛乳パックで作る虫のおもちゃ」						
25	まとめと評価：子どもの絵をダメにしませんか						
26	実技試験：紙袋を使って「バクバク人形」						
成績評価	総合評価（出席状況、授業態度・課題作品・筆記試験）						
テキスト	参考図書「絵画・制作造形遊び指導百科」ひかりのくに・「子どもの絵は何を語るか」NHK ブックス						
その他	適宜プリント・実習に必要な材料は各自で準備し、持参すること。 期限を守って課題作品を提出すること。（理由なく遅れた場合は減点の対象となる）						

注：履修希望・登録及び授業計画の出席・理解は学生の記入欄とする。

科目名	体 育			担当者	武 井 博		
対象学年	履修区分	授業形態	単位数	期 間	履修希望	履修登録	
1年	必修	演習	2	通年	YES NO	YES NO	
講義の概要	<p>概要：教科課程の体育の理解と、器械運動・リズム体操の修得</p> <p>教育目標：幼児指導者としての身体表現力の向上と体力づくり。体操・器械運動の特性を理解する。</p> <p>学習成果の達成度：指導者としての知識を高めるとともに身体表現の技能を身につける。</p>						
授業計画	週	内 容				出席	理解
	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15	<p>概要説明・講義</p> <p>器械運動（マット・跳び箱・鉄棒・トランポリン・ラート）</p> <p>器械運動（マット・跳び箱・鉄棒・トランポリン・ラート）</p> <p>器械運動（マット・跳び箱・鉄棒・トランポリン・ラート）</p> <p>器械運動（実技試験）</p> <p>講義（理論）</p> <p>講義（理論）</p> <p>リズム体操（1.2体操・ハロー体操・ブルドッグ体操）</p> <p>リズム体操（飛行船・フォース・野菜体操・ごじゃえもんロック）</p> <p>手具体操（リボン・ロープ・ボール・フープ・鳴子・棒）</p> <p>手具体操（リボン・ロープ・ボール・フープ・鳴子・棒）</p> <p>手具体操（実技体操）</p> <p>講義（理論）</p> <p>講義（理論）</p> <p>講義（まとめ）</p> <p>講義内容</p> <p>身体活動はなぜ必要か</p> <p>幼児期の運動発達の理解</p> <p>幼児は身体活動の何を楽しむのか</p> <p>身体活動にとっての環境</p> <p>学習曲線</p> <p>モデリング</p> <p>臨界期とレディネス</p> <p>新人指導者教育</p> <p>幼児と運動</p>					
成績評価	実技試験、筆記試験、出席・受講態度を重視する。						
テキスト	プリントを適時配付する。						
その他							

(2) 教職に関する科目

注：履修希望・登録及び授業計画の出席・理解は学生の記入欄とする。

科目名	初 等 教 育 原 理			担当者	鈴 木 勝 雄		
対象学年	履修区分	授業形態	単位数	期 間	履修希望	履修登録	
1年	必修	講義	2	半期	YES NO	YES NO	
講義の概要	<p>概要：望ましい教師の在り方・生き方を基盤的視点にすえ、学校教育の場における現実的な課題をふまえ、講義する。</p> <p>教育目標：専門職としての教師の資質と能力の基礎を身につける。</p> <p>学習成果の達成度：教師としての実践力の向上を図る。</p>						
授業計画	週	内 容				出席	理解
	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15	<p>初等教育とは……</p> <p>子ども理解と教育</p> <p>発達と教育</p> <p>子どもにとって、幼稚園（保育所）とは……</p> <p>発達に必要な経験</p> <p>子どもの生活とカリキュラム（その1）</p> <p>子どもの生活とカリキュラム（その2）</p> <p>幼稚園（保育所）の歴史</p> <p>子どもが育ち合える幼稚園（保育所）</p> <p>子どもが求める教師（保育者）</p> <p>教師（保育者）の自己評価</p> <p>家庭との連携</p> <p>地域との連携</p> <p>情報化社会と子ども</p> <p>まとめ・人間性と教育</p>					
成績評価	レポート、筆記試験、出席状況等により総合判定する。						
テキスト	「講義プリント」や教育関係の資料等を毎回配付し、講義する。						
そ の 他	レポートなどの提出を求め、各自の学習状況の様子を最重要視する。						

注：履修希望・登録及び授業計画の出席・理解は学生の記入欄とする。

科目名	保 育 原 理 I			担当者	森 静 子		
対象学年	履修区分	授業形態	単位数	期 間	履修希望	履修登録	
1年	必修(保)	講義	4	通年	YES NO	YES NO	
講義の概要	<p>概要：保育の意義や保育所における保育の特性や内容、様々な保育ニーズなど、教科書やビデオ、資料より、今求められている保育者として基本を理解し、理論と実践が結びつく保育原理を学ぶ。</p> <p>教育目標：保育の場の歴史を知り、子どもの発達過程における保育内容や現代の家庭・地域との連携の重要性などを理解する。また、乳幼児の総合的な発達を保障する保育者として保育指導計画を作成し、多様な保育ニーズに対応できる相談援助など、基本原理を学ぶ。</p> <p>学習成果の達成度：保育の意義を認識し、保育所における保育の特性や保育内容、安全、保護者支援の重要性を理解する。乳幼児の最大の利益を守る保育者として、今後のあるべき保育所の姿を理解する。</p>						
授業計画	週	内 容				出席	理解
	1～3 4～5 6～8 9～11 12～15 16～18 19～21 22～24 25～27 28 29～30	1. 保育の本質 2. 保育の場 3. 幼稚園教育・保育所保育の原理 4. 幼稚園教育・保育所保育の内容 5. 幼稚園教育・保育所保育の計画 6. 発達過程区分の保育の内容と指導計画 7. 保育の健康・安全上の留意事項 8. 子育てに関する相談援助活動 9. これからの保育サービス 10. 保育者の専門性と資質 11. 家庭・地域との連携 12. 保育の歴史と現状					
成績評価	受講状況および試験・ファイル内容で総合評価する。						
テキスト	「保育原理」大学図書出版 小田豊監修、改定・保育所保育指針解説書 フレーベル						
その他							

注：履修希望・登録及び授業計画の出席・理解は学生の記入欄とする。

科目名	教育・保育方法論			担当者	木全晃子		
対象学年	履修区分	授業形態	単位数	期間	履修希望	履修登録	
1年	必修(幼保)	演習	2	半期	YES NO	YES NO	
講義の概要	<p>概要：幼児教育は遊びを通して幼児が必要な経験を積んでいくことが基本とされている。本演習では、保育者として子どもの興味、関心、要求を的確に受け止め、指導・援助するための基本を学ぶ。</p> <p>教育目標：乳幼児期にふさわしい教育のあり方として「環境を通しての教育」「遊びを通しての指導」を学ぶ。</p> <p>学習成果の達成度：環境を通して教育する方法として意欲的、自発的活動の主体としての子ども観、環境と直接的、具体的に関わることを通して発達する発達観を体得する。</p>						
授業計画	週	内 容				出席	理解
	1	ガイダンスー「子ども」と保育					
	2	保育方法の基本					
	3	・保育の意味					
	4	・保育方法とは					
	5	保育方法の理念					
	6	・環境を通して行う保育					
	7	・子どもの主体性を尊重した保育					
	8	・遊びを生かした総合的な保育					
	9	・集団と個人が育つ保育					
	10	指導・援助の実際					
	11	・発達の時期に応じた保育の展開					
	12	・保育方法と指導形態					
	13	・保育の計画と実践・評価					
	14	・記録を生かした保育					
	15	まとめ					
成績評価	試験・提出物・受講状況から総合的に評価する。						
テキスト	適宜プリントを配付する。						
その他							

注：履修希望・登録及び授業計画の出席・理解は学生の記入欄とする。

科目名	保育内容総論			担当者	新井 れ江子		
対象学年	履修区分	授業形態	単位数	期間	履修希望	履修登録	
1年	必修(幼保)	演習	2	半期	YES NO	YES NO	
講義の概要	<p>概要：現代の保育の場での保育内容を基本的な視点で理解し、実践する保育者として、五領域全体を総合的な視点で捉え、保育の全体構造の理解に基づいて、子どもの理解や保育方法について学ぶ。</p> <p>教育目標：子どもの発達課程に即して総合的に指導援助が行えるよう実践的な力を習得する。 保育と教育の違いと共通性それぞれの目標について理解を深め、保育内容を構成するさまざまなファクターについて学ぶ。</p> <p>学習成果の達成度：幼児の発達と保育内容の関係を理解するとともに、幼稚園と保育所において展開される保育内容について総合的に学ぶ。</p>						
授業計画	週	内 容				出席	理解
	1 2 3～4 5～6 7～8 9 10～11 12～13 14～15	1. 保育内容の考え方 2. 保育内容の変遷 3. 子どもの発達と保育内容 4. 環境を通して行う教育 5. 遊びを通しての総合指導 6. 教育課程の意義及び編成の方法 7. 保育計画と指導計画 8. 保育者の役割と幼児理解 9. 保育の課題と展望					
成績評価	出席状況や試験、提出ファイル内容などを総合評価する。						
テキスト	「保育内容総論」同文書院						
その他							

注：履修希望・登録及び授業計画の出席・理解は学生の記入欄とする。

科目名	保育内容・健康			担当者	尾内 萬喜枝		
対象学年	履修区分	授業形態	単位数	期間	履修希望	履修登録	
1年	必修(幼保)	演習	2	半期	YES NO	YES NO	
講義の概要	<p>概要：幼児期に、生涯にわたる「生きる力」の基礎となる健康なところと身体を育てることは極めて重要な課題である。こどもの健康に関わる現代の課題も概観しながら、こどもの健康と保育者の役割について学習する。</p> <p>教育目標：こどもの「健康」について知見を深め、保育者としての役割が理解できること。</p> <p>学習成果の達成度：こどもの健康について理解が深まり、保育者としての関わり方の重要性が理解できること。</p>						
授業計画	週	内 容				出席	理解
	1 2～4 5～6 7 8 9 10 11 12 13 14 15	こどもの健康の概念 こどものところと身体理解（発育・発達） こどもの健康をめぐる現状と課題 こどもの口腔保健 こどもの食生活と食育 基本的な生活習慣と生活リズム こどもの罹りやすい病気 こどもの心身の発達を促す環境、指導計画 運動遊びと体力づくり 保健管理と健康観察の重要性 こどもの健康と安全管理・安全教育 家庭・地域・小学校・諸機関との連携					
成績評価	筆記試験、出席状況、学習態度により評価する。						
テキスト	新・保育ライブラリ 保育内容健康 民秋 言・穂丸武臣 編著（北大路書房）						
その他							

注：履修希望・登録及び授業計画の出席・理解は学生の記入欄とする。

科目名	保育内容・環境			担当者	関根和伯		
対象学年	履修区分	授業形態	単位数	期間	履修希望	履修登録	
1年	必修(幼保)	演習	2	半期	YES NO	YES NO	
講義の概要	<p>概要：「幼児と豊かな触れ合いを持つ」ための基礎力を得る方法として、身近な自然、虫や草の観察及び地域とのかかわり等を学習する。</p> <p>教育目標：自然と触れ合う中で様々な事象に興味や関心を持ち発見を楽しんだり、生活に取り入れるような幼児を育てる。</p> <p>学習成果の達成度：</p>						
授業計画	週	内 容				出席	理解
	1	ガイダンス（授業内容の概要と進め方）					
	2	幼児と環境					
	3	幼児の発達と環境					
	4	幼児と環境とのかかわり					
	5	植物にかかわる力を育てる					
	6	野外実習 路傍の雑草、草花の観察					
	7	室内実習 植物標本の作製					
	8	動物にかかわる力を育てる					
	9	野外実習 雑木林の虫、水田の小動物の観察					
	10	物にかかわる力を育てる					
	11	自然現象にかかわる力を育てる					
	12	地域とかわる力を育てる					
	13	情報にかかわる力を育てる					
	14	環境と数量、図形にかかわる力を育てる					
	15	まとめ					
成績評価	試験、出席状況、提出物（実習、観察録）から総合評価する。						
テキスト	なし。適時資料を配付する。						
その他	学習意欲（授業態度や提出物の内容）を重視する。						

注：履修希望・登録及び授業計画の出席・理解は学生の記入欄とする。

科目名	保育内容・表現 I			担当者	阿 部 肇		
対象学年	履修区分	授業形態	単位数	期 間	履修希望	履修登録	
1 年	必修(幼保)	演習	2	半期	YES NO	YES NO	
講義の概要	<p>概要：幼児美術教育というのは、二面性を持っている。一つには、幼児の絵画性、創造性を育むことであり、もう一方には、指導者自身の美術表現的能力の向上である。実際の現場では、その場に合った創造性が要求されるので、現場に立った時、とまどうことのないように、頭でおぼえるのではなく、手でおぼえる授業をしていきたい。</p> <p>また、幼児教育には、愛情や、やさしさといったものが不可欠であるので、美術教育と言えど、その事を抜きに考えることはできない。</p> <p>教育目標：まずは、実習等で、即、子供達に指導出来るようにする。</p> <p>学習成果の達成度：幼・保の現場で、スムーズに指導が出来るように、指導ファイルの作成。</p>						
授業計画	週	内 容				出席	理解
	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内容、材料、用具等の説明（とうかんでっぼう）（紙笛） ・折り紙（鯉のぼり）（チューリップ）＝時節の行事 ・クレヨンマーブリング（オーロラ遊び）＝材料体験 ・母の日（カーネーションの花束）＝時節の行事 ・デカルコマニー・ストリングアート＝材料体験 ・くりで遊ぼう（折り紙、貼り絵）＝実習対策等 ・かんたんスタンプ ・父の日（ドリッピング、似顔絵）＝時節の行事 ・ペーパークラフト（ぞう、からす等） ・七夕かざり＝時節の行事 ・風と遊ぶ①（はしってクルクル）（ヘリコプター） ②（吹いて走る動物、さくにいれよう） ・自然ぶつのコラージュ ・クリスマス（サンタ、もみの木等）＝時節の行事 ・全体のまとめ 					
成績評価	総合評価（授業態度、出席状況、課題の成績）						
テキスト	適宜、プリント配付						
その他	授業内で課題が終了するように時間を有効に使うように心掛ける。						

注：履修希望・登録及び授業計画の出席・理解は学生の記入欄とする。

科目名	保育内容・表現Ⅱ			担当者	森 静子・新井れ江子 塚越亜希子		
対象学年	履修区分	授業形態	単位数	期 間	履修希望	履修登録	
1年	必修(幼保)	演習	2	通年	YES NO	YES NO	
講義の概要	<p>概要：実際に保育現場で使われている様々な指導法や遊びの保育技術を、体験を通して学ぶ。教材研究や音楽活動などグループ活動の機会が多い。作品制作など実践する授業から仕上げることの重要性を学ぶ。</p> <p>教育目標：乳幼児の発達過程に即した、様々な表現活動の方法を学ぶ。直接的にかかわる保育者として子どもの興味関心を理解し、教材や指導方法を実践できる力を養う。</p> <p>学習成果の達成度：保育者として乳幼児保育に必要な態度・指導方法を知り、実践することができる。グループ活動を通して、協調性が養われる。作品を仕上げる活動から達成感を体得する。</p>						
授業計画	週	内 容				出席	理解
	1～2 3～5 6～8 9～11 12～15 16～17 18～20 21～22 23～26 27～30	<p>保育内容領域「表現」とは、乳幼児の生き生きとした表現意欲を養い、創造力をより豊かにするような指導法や教材研究である。そのことを目指して下記の内容を授業で行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 様々な場面で導入に使う手遊び歌遊びを学ぶ 2. 子どもとのコミュニケーションがとれる名札作り 3. 子どもと心を通わせる手袋人形作り 4. 歌や生活習慣指導に使えるペープサート作り 5. 乳幼児の生活指導やお話・歌などの表現を楽しむパネルシアター教材制作 6. 手作り教材の作り方、演じ方を学ぶ 7. 集団で楽しむリズム遊びやゲーム遊び、伝承遊び 8. 簡単なリズム遊び体験し指導法を学ぶ 9. 様々な手話ソングを知りその教育的な意味を理解する 10. 今までの表現保育技術を使った指導案作成 					
成績評価	作品提出や発表内容、出席状況による総合評価						
テキスト	チャイルドブック 保育実用書シリーズ「こどものうた200」						
その他	制作物の提出期限を守る。後半グループ行動が多いので、お互いに協力する。						

注：履修希望・登録及び授業計画の出席・理解は学生の記入欄とする。

科目名	乳 幼 児 心 理 学			担当者	濱 田 祥 子		
対象学年	履修区分	授業形態	単位数	期 間	履修希望	履修登録	
1 年	必修(幼保)	講義	2	半期	YES NO	YES NO	
講義の概要	<p>概要：乳幼児心理学とは、人間の発達において最も早い時期にあたる乳幼児を対象とした心理学である。</p> <p>教育目標：乳幼児・幼児期の子どもたちの心理的発達について、親子関係、言葉、思考、遊び、社会性等の諸側面から考察し、それぞれの年齢段階における発達の様相と課題について理解を深める。</p> <p>学習成果の達成度：乳幼児の発達の特徴、環境から受ける影響についての理解を深め、保育者として乳幼児を多角的に捉えられるようになることを目指す。</p>						
授業計画	週	内 容				出席	理解
	1	乳幼児心理学とは					
	2	乳幼児期の親と子のかかわり					
	3	感情・情緒の発達					
	4	運動機能の発達					
	5	言葉の発達					
	6	認知・思考の発達					
	7	社会性の発達					
	8	遊びの発達					
	9	パーソナリティの発達					
	10	発達の多様性①					
	11	発達の多様性②					
	12	現代社会と子どもの育ち					
	13	保育者の役割と専門性①					
	14	保育者の役割と専門性②					
	15	まとめ					
成績評価	出席状況、レポート、定期試験						
テキスト	乳幼児心理学 無藤 隆、岩立京子 北大路書房、授業時の配付プリント						
その他							

注：履修希望・登録及び授業計画の出席・理解は学生の記入欄とする。

科目名	教育実習指導			担当者	新井れ江子・木全 晃子 塚越亜希子			
対象学年	履修区分	授業形態	単位数	期 間	履修希望	履修登録		
1年	必修(幼)	実習	1	半期	YES NO	YES NO		
講義の概要	<p>概要：本講義は、1年次に行う幼稚園観察実習及び2年次での本実習に備え、教育実習の意義、内容、方法などを解説する。学生自らが十分な心構えを持ち、指導技術を身に付けて実習に臨むよう学ぶ。</p> <p>教育目標：大学で習得した教育に関する理論と、幼稚園で行われている教育の実際とを有機的に関連づけ教職的な能力を習得する。</p> <p>学習成果の達成度： ○教育実習に向う学生の意識を高め、さまざまな実習の種類とポイントを理解する。 ○実践的指導力を身に付ける。</p>							
授業計画	週	内 容				出席	理解	
	1	教育実習とは何か	(意義、目的、内容)					
	2	教育実習の準備	(オリエンテーション、教育実習の流れ)					
	3	教育実習生としての心得	(心得、幼稚園における実習生の一日)					
	4	1年次の教育実習	(ねらい、見学実習、観察実習)					
	5	教育実習記録の作成	(教育実習記録の書き方)					
	6	指導技術(1)	〔子どもとのかかわり方、集団に話す〕 紙芝居を演ずる、絵本の読み聞かせ 手遊びなど					
	7	／						
	8	2年次の本実習に向けて						
	9	2年次の教育実習について	(ねらい、参加実習、部分実習、一日実習)					
	10	部分実習の実際	(教育実習記録を活かした、部分実習指導案の作成)					
	11	一日実習の実際	(一日実習指導案の作成の手順と考え方)					
	12	指導技術(2)	(ルールのある遊びの指導)					
	13	／	(製作活動の指導)					
	14	／	(導入・展開・まとめの工夫)					
15	一日実習指導案の作成							
成績評価	出席、授業中のレポート、基礎テスト、実習幼稚園からの評価等を総合評価する。							
テキスト	幼稚園教育実習テキスト 関東短期大学 参考図書：『幼稚園教育要領解説』（文部科学省）フレーベル館							
その他	春休みに本実習に向けての課題がある。							

(3) 保 育 士 科 目

注：履修希望・登録及び授業計画の出席・理解は学生の記入欄とする。

科目名	児 童 福 祉 I			担当者	川 島 良 雄		
対象学年	履修区分	授業形態	単位数	期 間	履修希望	履修登録	
1年	必修(保)	講義	2	半期	YES NO	YES NO	
講義の概要	<p>概要：1. 児童福祉の専門職としての保育士の役割を理解する 2. 児童福祉の意義、歴史的展開過程について理解する 3. 児童福祉の法律、制度、機関、施設、在宅サービス等について体系的に理解する 4. 児童、家庭に対する相談援助活動について理解する。</p> <p>教育目標：1. 保育士の役割を理解する 2. 児童福祉の意義、歴史、法律、制度、機関、施設、在宅サービス等について体系的に理解する 3. 児童、家庭に対する相談援助活動について理解する。</p> <p>学習成果の達成度：児童福祉の対象、法律、制度、支援方法について基礎的な理解をしている。</p>						
授業計画	週	内 容				出席	理解
	1	児童福祉の概念・理念					
	2	児童福祉の歴史					
	3	児童の権利条約と権利擁護					
	4	児童福祉に関する法律					
	5	児童福祉に関する制度①					
	6	児童福祉に関する制度②					
	7	児童福祉に関する制度③					
	8	児童福祉に関する機関					
	9	児童福祉に関する施設					
	10	児童福祉に関する在宅サービス					
	11	児童福祉に関する援助技術					
	12	養護問題の理解と対応					
	13	児童虐待の理解と対応					
	14	障害児の理解と対応					
	15	児童福祉の今後の課題					
成績評価	授業への参加状況（発表・発言）、レポートを総合評価する。						
テキスト	保育士養成講座編纂委員会編「児童福祉」全国社会福祉協議会						
その他							

注：履修希望・登録及び授業計画の出席・理解は学生の記入欄とする。

科目名	養 護 原 理			担当者	川 島 良 雄		
対象学年	履修区分	授業形態	単位数	期 間	履修希望	履修登録	
1年	必修(保)	講義	2	半期	YES NO	YES NO	
講義の概要	<p>概要：1. 社会的養護が必要となる養護問題の原状や背景について理解する 2. 社会的養護の体系や施設養護の原状及び役割について理解する 3. 障害児への援助者としての役割を理解する 4. こども観、施設観を養う学習を行う。</p> <p>教育目標：1. 社会的養護を理解する 2. こどもへの援助者としての役割を理解する 3. こども観、施設観を養う学習を行う。</p> <p>学習成果の達成度：社会的養護、施設養護の基礎的な理解をしている。</p>						
授業計画	週	内 容				出席	理解
	1	1. 児童養護の概念の理解	①児童養護の理解、子ども観の形成				
	2		②社会的養護必要とするこども達				
	3		③児童養護の歴史				
	4	2. 施設における児童養護	①対象となる児童				
	5		②施設養護の特質・基本原理				
	6		③施設養護の制度・体系				
	7		④養育環境に問題がある児童の施設養護				
	8		⑤障害がある児童の施設養護				
	9		⑥情緒・行動に問題がある児童の施設養護				
	10		⑦家庭的養護				
	11	3. 施設養護の実践方法	①施設入所児童の特徴				
	12		②生活援助の目標				
	13		③社会性向上のための支援				
	14	4. 社会的養護の今後の課題					
	15		まとめ				
成績評価	授業への参加状況（発表・発言）、レポートを総合評価する。						
テキスト	小野澤昇・石井巧一編「保育士のための養護原理」大学図書出版						
その他							

注：履修希望・登録及び授業計画の出席・理解は学生の記入欄とする。

科目名	小 児 保 健 I			担当者	柳 田 悦 子		
対象学年	履修区分	授業形態	単位数	期 間	履修希望	履修登録	
1 年	必修(保)	講義	2	半期	YES NO	YES NO	
講義の概要	<p>概要：小児の発育・発達、栄養を学び、小児に多い疾病や事故などを通して、それらの予防と保健指導についての基礎を習得する。また、子どもの心身両面における健康の保持・増進のための支援方法を習得する。</p> <p>教育目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 小児の健康の必要性や健康の意味を理解し、保育実践における保育の重要性を理解する。 2 小児の心身の問題が養育環境や養育方法に起因することを理解し、適切に対処できるようにする。 3 小児の病気や事故の特徴とその予防及び対処法について学ぶ。 <p>学習成果の達成度：</p>						
授業計画	週	内 容				出席	理解
	1～2	1 小児保健の基礎 ・小児の特徴 ・小児保健の意義・健康の考え方 ・小児の健康と家庭の役割・地域との連携					
	3～6	2 小児の発育・発達とその評価 ・身体発育の特徴とその評価 ・運動機能の発達とその評価 ・精神機能の発達とその評価 ・生理機能の発達					
	7～8	3 小児の食生活と栄養 ・小児の栄養の意義 ・小児の各時期における食生活と栄養 ・食中毒予防					
	9～12	4 小児の疾病 ・小児の疾病の特徴 ・小児によくみられる疾病 ・感染症予防・予防接種					
	13～15	5 保育現場における事故 ・小児の事故の特徴 ・小児の事故防止と安全対策 ・救急処置					
成績評価	出席状況、筆記試験、必要に応じミニレポート等を総合的に評価						
テキスト	「新・小児保健」今村 栄一・巷野 悟郎						
その他							

注：履修希望・登録及び授業計画の出席・理解は学生の記入欄とする。

科目名	乳 児 保 育 I			担当者	木 村 たか子		
対象学年	履修区分	授業形態	単位数	期 間	履修希望	履修登録	
1 年	必修(保)	演習	2	半期	YES NO	YES NO	
講義の概要	<p>概要：わが国における乳児保育の変遷とその役割や機能を知り、乳児期の子どもの発達を理解し、乳児保育を担当する保育士として乳児保育の理論と実践の基本を学ぶ。</p> <p>教育目標：乳児保育の意義と役割を理解し、乳児を担当する保育士としての自覚を持ち、乳児保育の理論や知識、技術を修得する。乳児を集団で保育することの課題（安全管理や疾病等）について具体的に学ぶ。</p> <p>学習成果の達成度： 乳児保育の現状を確認し、その重要性を理解し、乳児担当の保育者としての自覚を持つ。 安全や衛生管理、病気や健康管理の具体的な方法を習得し、その重要性を理解する。 乳児の発達を理解し、適切な対応について修得する。</p>						
授業計画	週	内 容				出席	理解
	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15	<p>生命の誕生—子ども（乳児）が生きるということ</p> <p>乳児保育の概念・乳児保育の特質・保育所や乳児院の役割</p> <p>乳児を担当する保育者の役割</p> <p>乳児の発達と保育①養護とは</p> <p>ゝ ②0歳児</p> <p>ゝ ③沐浴実習</p> <p>ゝ ④ 〃</p> <p>ゝ ⑤0歳児</p> <p>ゝ ⑥1歳児</p> <p>ゝ ⑦1歳児</p> <p>ゝ ⑧2歳児</p> <p>ゝ ⑨2歳児</p> <p>命を守る安全管理</p> <p>集団保育と衛生管理</p> <p>保育の環境構成・保育の計画と記録</p>					
成績評価	レポート等の提出物と授業への参加状況、試験の結果で総合評価						
テキスト	「乳児保育」南山堂（改訂10版） 石原栄子・庄司順一・田川悦子・横井茂夫著						
その他	授業中は集中して課題に取り組むこと。						

注：履修希望・登録及び授業計画の出席・理解は学生の記入欄とする。

科目名	保育実習指導Ⅰ			担当者	森 静子・木村たか子 濱田 祥子・塚越亜希子		
対象学年	履修区分	授業形態	単位数	期 間	履修希望	履修登録	
1年	必修(保)	実習	1	半期	YES NO	YES NO	
講義の概要	<p>概要：保育実習を円滑に進めていくための知識、技能を修得し、目的意識を持って実習ができるよう学習内容や課題を明確にする。</p> <p>教育目標：児童福祉施設の内容や機能を理解し、保育士としての職業倫理と子どもの最善の利益について自覚を持ち、総合的な保育の知識や技術を修得する。</p> <p>学習成果の達成度：保育実習の意義、目的、内容を理解し、保育実習を円滑に行えるような社会性や人間関係構築能力をつけ、保育の実践的な技術を修得する。</p>						
授業計画	週	内 容				出席	理解
	1	保育実習の意義、目的、内容を理解する					
	2	実習の基本的な心得について理解する					
	3	施設実習について理解する①					
	4	施設実習について理解する②					
	5	実習施設の理解①養護施設					
	6	実習施設の理解②知的障害者厚生施設					
	7	保育技術修得①自己紹介をする					
	8	実習施設の理解③保育所					
	9	オリエンテーションの受け方と事務手続の仕方					
	10	保育技術修得②環境設定・導入・部分実習の指導案					
	11	実習日誌の書き方①					
	12	〃 ②					
	13	実習課題の立て方①					
	14	〃 ②					
	15	実習事前チェック（実習生としての心構えの再確認）					
成績評価	レポートの提出や授業への参加状況等で総合評価する。						
テキスト	「幼稚園・保育所・施設実習テキスト」建帛社 二階堂 邦子 編集						
その他	保育実習を実りあるものとするために欠席せず主体的に取り組むこと。						

2 年 生

1. 基礎科目 (必修)

基礎科目

注：履修希望・登録及び授業計画の出席・理解は学生の記入欄とする。

科目名	ソフォモア・セミナー			担当者	新井れ江子・乙部はるひ 川島 良雄・松田 侑子		
対象学年	履修区分	授業形態	単位数	期間	履修希望	履修登録	
2年	必修	演習	2	通年	YES NO	YES NO	
講義の概要	<p>概要：社会人として現代社会の多様な姿を理解し、各担任の個別指導や全体的指導を受けながら、2年次に必要な学習内容を積極的に学び、教育者・保育者としての資質の向上を目指す。</p> <p>教育目標：子どもに対して大きな影響力を有する保育者として、その望ましいあり方や子ども文化についての理解をより発展させる。そのことから社会と自分のあり方についての理解を深め、生き抜く知恵を学ぶ。</p> <p>学習成果の達成度：心身ともに充実した2年次を送り、教育者・保育者として自らの目標に向かって自己実現を図れるようになる。</p>						
授業計画	週	内 容				出席	理解
	1 30	<p>以下の内容を踏まえ、学年統一内容、各クラス独自の内容、個別指導などで進める</p> <p><内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもを取り巻く社会状況を理解する 2. 自らの学ぶ姿勢から、学問の学ぶことの意味を教育的な視点で捉える 3. 物事を考える視点や豊かな問題意識を育む 4. 他者と心を通い合わせるコミュニケーション能力を高める 5. これから社会の一員になることを踏まえ、自らを振り返り、長所を伸ばし不足を補うよう努力する 6. 子どもと家庭の問題点をしっかりと捉え、教育者・保育者としてどのような課題があるか認識する 7. 教育・福祉の現場での、実践力を養う 8. 今求められている教育者・保育者はどのような資質が必要なのか理解する 9. 2年次に必要な就職への対策や情報収集に努力する 10. 自分の夢の実現に果敢に取り組む 					
成績評価	本人の自己達成度、筆記試験、授業への参加状況、レポート等を総合評価する。						
テキスト	各担任教員より適宜指示する。						
その他	教員、保育者を目指す学生としての基本態度・出席状況を重視する。						

基礎科目

注：履修希望・登録及び授業計画の出席・理解は学生の記入欄とする。

科目名	日本語表現Ⅱ			担当者	吉川由香子		
対象学年	履修区分	授業形態	単位数	期間	履修希望	履修登録	
2年	必修	演習	1	半期	YES NO	YES NO	
講義の概要	<p>概要：進路に役立つ語彙、漢字、敬語、文法のトレーニングと論文の書き方を身につける。</p> <p>教育目標：正しい日本語を身につけ、キャリア形成に即応できる応用力を身につける。</p> <p>学習成果の達成度：実習先、就職試験での遂行。</p>						
授業計画	週	内 容				出席	理解
	1 2～4 5～7 8～10 11～13 14～15	<p>ガイダンス</p> <p>基礎レッスン 地図をことばに変える 状態をことばに変える</p> <p>正確な表現 マッピングから意見表示へ 論理トレーニング</p> <p>わかりやすい表現 伝達方法 情報収集と整理</p> <p>声と身体を含めた総合的な表現 音読 スピーチ</p> <p>論文を書く 構成と推敲</p>					
成績評価	受講状況、提出物、テスト						
テキスト	『日本語表現のレッスン』（教育出版）						
その他	『日本語検定』練習問題集（日本語検定委員会／東京書籍）						

2. 教養科目 (選択)

教 養 科 目

注：履修希望・登録及び授業計画の出席・理解は学生の記入欄とする。

科目名	児 童 英 語 A			担当者	レオナルド・バロウ		
対象学年	履修区分	授業形態	単位数	期 間	履修希望	履修登録	
2年	選択	演習	2	半期	YES NO	YES NO	
講義の概要	<p>概要：Recently there has been an increase in the importance of learning English in Japan. Many nursery schools and kindergartens are incorporating English as a subject in their curriculum. Therefore it is a great advantage if a teacher has the necessary tools to create and lead a fun and exciting English lesson.</p> <p>教育目標：The objective of this course is to prepare the students on how to create develop and adjust their lessons to suit the needs of their children. This course will also focus on how to create fun and engaging lesson plans.</p> <p>学習成果の達成度：The goal of this course is to give students the necessary tools to develop effective lessons and for the students to conduct their lessons with confidence.</p>						
授業計画	週	内 容				出席	理解
	1 2～4 5～6 7～8 9～10 11～12 13～14 15	Course Introduction Classroom English Classroom Management Games & Activities Songs & Chants Making a Lesson Plan Materials & Realia Pronunciation					
成績評価	Test/Classwork/Participation/Attendance						
テキスト	保育の英会話、赤松直子・久富陽子著、萌文書林						
その他	Handouts						

教養科目

注：履修希望・登録及び授業計画の出席・理解は学生の記入欄とする。

科目名	児 童 英 語 B			担当者	レオナルド・バロウ		
対象学年	履修区分	授業形態	単位数	期 間	履修希望	履修登録	
2年	選択	演習	2	半期	YES NO	YES NO	
講義の概要	<p>概要：Recently there has been an increase in the importance of learning English in Japan. Many nursery schools and kindergartens are incorporating English as a subject in their curriculum. Therefore it is a great advantage if a teacher has the necessary tools to create and lead a fun and exciting English lesson.</p> <p>教育目標：The objective of this course is to provide students with the topics, vocabulary and language necessary for English lessons in a kindergarten or nursery school setting.</p> <p>学習成果の達成度：The goal of this course is to give students the necessary to tools to develop effective lessons and for the students to conduct their lessons with confidence.</p>						
授業計画	週	内 容				出席	理解
	1	Course Introduction					
	2	The Alphabet / Feelings					
	3	Numbers / Time					
	4	Colours / Shapes					
	5	Animals					
	6	Food					
	7	The Body					
	8	Family					
	9	Actions : Verbs & Directions					
	10	Weather					
	11	Places & People					
	12	Clothing					
	13	Sports					
	14	Transportation					
	15	Nature					
成績評価	Test/Classwork/Participation/Attendance						
テキスト	保育の英会話、赤松直子・久富陽子著、萌文書林						
その他	Handouts						

3. 專 門 科 目

(1) 教科に関する科目

注：履修希望・登録及び授業計画の出席・理解は学生の記入欄とする。

科目名	器 楽 II			担当者	乙部はるひ・古谷 和子 渡邊知恵子・久保田和子 茂木夕起子		
対象学年	履修区分	授業形態	単位数	期 間	履修希望	履修登録	
2年	選択	演習	2	通年	YES NO	YES NO	
講義の概要	<p>概要：器楽Ⅰで学んだ基礎技術を土台とし、保育者としてのピアノ技術、保育現場で必要とされる伴奏、弾き歌いの実践力を育成する。</p> <p>教育目標：個人レッスン、適宜実践演習等のグループレッスン等により、童謡の弾き歌いの習得を目指す。</p> <p>学習成果の達成度：幼稚園や保育園で使う童謡の伴奏が出来るようになる。</p>						
授業計画	週	内 容				出席	理解
	1 2～7 8～15 16～30	<p>オリエンテーション 童謡課題表の配付</p> <p>童謡課題表から選択した曲、本実習で使用する曲のレッスンを行う</p> <p>童謡課題表から選択した曲のレッスン、就職試験対策を行う</p> <p>〃</p> <p>就職先から配付された使用予定曲のレッスンを行う</p>					
成績評価	課題習得曲数、実践指導能力を評価する。						
テキスト	「簡易伴奏によるこどもの歌ベストテン」(ドレミ楽譜出版社)、プリント						
その他	必ず予習してきてください。						

注：履修希望・登録及び授業計画の出席・理解は学生の記入欄とする。

科目名	幼 児 体 育			担当者	武 井 博		
対象学年	履修区分	授業形態	単位数	期 間	履修希望	履修登録	
2年	選択	演習	2	通年	YES NO	YES NO	
講義の概要	<p>概要：幼児期における運動あそびを理解し、自己も楽しく参加することを学ぶ。 リズム体操を左右どちらかでも実施できるように練習し検定試験にそなえる。</p> <p>教育目標：幼児期の発育特性の理解、身体能力や運動技能を高める。</p> <p>学習成果の達成度：言葉がけをしながらの実技指導、楽しく安全な運動の実施方法を学ぶ。</p>						
授業計画	週	内 容				出席	理解
	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15	<p>概要説明・講義</p> <p>リズム体操（1. 2体操・ハロー体操・ブルドッグ体操）</p> <p>リズム体操（飛行船・フォース・野菜体操・ごじゃえもんロック）</p> <p>リズム体操（1. 2体操・ハロー体操・ブルドッグ体操）</p> <p>リズム体操（飛行船・フォース・野菜体操・ごじゃえもんロック）</p> <p>リズム体操（1. 2体操・ハロー体操・ブルドッグ体操）</p> <p>リズム体操（飛行船・フォース・野菜体操・ごじゃえもんロック）</p> <p>手具体操（リボン・ロープ・ボール・フープ・鳴子・棒）</p> <p>手具体操（リボン・ロープ・ボール・フープ・鳴子・棒）</p> <p>講義（理論）</p> <p>講義（理論）</p> <p>運動あそび（レクリエーション種目・ラケットテニス・バンブーダンス・トランポリン・ラート・縄跳び・竹馬等）</p> <p>講義（理論）</p> <p>講義（まとめ）</p> <p>講義内容</p> <p>幼児体育の意義と役割</p> <p>子どものあそびと発達</p> <p>運動のとらえ方と指導の基本</p> <p>保育における体育あそび</p> <p>体育あそびの実際</p> <p>障がいのある子どもの体育あそび</p> <p>幼児体育指導における安全と応急手当</p> <p>※随時実技試験</p>					
成績評価	実技試験、筆記試験、出席・授業態度を重視する。						
テキスト	プリントを適時配付する。						
その他							

(2) 教職に関する科目

注：履修希望・登録及び授業計画の出席・理解は学生の記入欄とする。

科目名	教師・保育者論			担当者	新井 れ江子		
対象学年	履修区分	授業形態	単位数	期間	履修希望	履修登録	
2年	必修(幼) 選択(保)	講義	2	半期	YES NO	YES NO	
講義の概要	<p>概要：今日における保育者の状況（役割、資質、位置づけ等）を解明し省察するとともに、これからの保育者の姿を見出していくための可能性を模索する。</p> <p>教育目標：保育者に求められる専門性の理解を図る。</p> <p>学習成果の達成度：保育者としての資質、幼児理解、総合的に指導する力、保育者の一員としての協働性、保護者や地域社会との関係を構築する力等理解する。</p>						
授業計画	週	内 容				出席	理解
	1～5	ガイダンス 1. 保育者の仕事 (1) 子どもを取り巻く環境 (2) 多様な保育ニーズ (3) 実践の場における保育者 (4) 保育者の役割					
	6～13	2. 保育者の専門性（魅力ある保育者） (1) 環境設定・構成 (2) 子どもへの理解 (3) 保護者への理解 (4) 保育者間の連携 (5) 子どもの活動の展開と指導援助					
	14～15	3. 保育者の資質向上に向けての教材研究 (1) 今求められる実践研究 (2) 自作教材の開発					
成績評価	出席重視・研究発表・レポート・課題作品						
テキスト	別途指示する。						
その他	遅刻、欠席をしないで学習意欲を持ち続けること。						

注：履修希望・登録及び授業計画の出席・理解は学生の記入欄とする。

科目名	教育心理学			担当者	松田侑子		
対象学年	履修区分	授業形態	単位数	期間	履修希望	履修登録	
2年	必修(小幼保)	講義	2	半期	YES NO	YES NO	
講義の概要	<p>概要：教育心理学は、教育現場で活用される心理学を扱った学問であり、「より効果的な教育」を実現することを目的としている。</p> <p>教育目標：効果的な保育・教育を実践する上で必要な、心理学の知識を獲得することを目指し、保育者としての資質を高めていく。</p> <p>学習成果の達成度：保育者として、子どもに対する適切な教育的な対応を理解し、保育における教育相談にも対応できるような知識を得る。</p>						
授業計画	週	内 容				出席	理解
	1 2 3 4 5・6 7・8 9 10・11 12 13 14 15	<p>教育心理学とは？</p> <p>発達課題と教育：成熟と学習、発達の最近接領域など</p> <p>子どもの思考と教育：知能観、思考の特徴など</p> <p>子どもの記憶と教育：記憶・忘却の仕組みなど</p> <p>学習の心理と教育：学習の原理と学習のタイプ、学習過程と学習指導</p> <p>学習意欲と適応：学習に関わる動機づけ、賞罰の効果</p> <p>道徳意識の形成：道徳性の発達など</p> <p>学級集団：ソシオメトリー、学級集団の病理</p> <p>教育評価：測定と評価、評価のタイプ</p> <p>学校カウンセリング：学校で困難に直面している子どもへの援助</p> <p>特別支援教育：発達の遅れ・偏りのある子どもと教育的支援</p> <p>まとめ</p>					
成績評価	出席状況、定期試験、授業態度						
テキスト	レジュメを配付予定						
その他							

注：履修希望・登録及び授業計画の出席・理解は学生の記入欄とする。

科目名	発 達 心 理 学			担当者	松 田 侑 子		
対象学年	履修区分	授業形態	単位数	期 間	履修希望	履修登録	
2年	必修(保)	講義	2	半期	YES NO	YES NO	
講義の概要	<p>概要：発達心理学は乳児期から老年期までの生涯にわたるさまざまな発達をとらえる学問です。</p> <p>教育目標：こころの働きと行動の変化の過程である発達について理解を深めることで、子どもをいろいろな視点から捉え、より適切な援助できるようになることを目指す。</p> <p>学習成果の達成度：人の発達のプロセスについての概観を把握する。保育者と子どもの関連に対する理解を深める。</p>						
授業計画	週	内 容				出席	理解
	1 2 3 4 5～8 9 10・11 12 13・14 15	発達心理学とは？ 発達の段階と理論 胎児期・新生児期の発達 乳児期の発達 幼児期の発達 児童期の発達 青年期の発達 成人期以降の発達 発達の問題と援助—発達障害、子育てに関する問題を中心に— まとめ					
成績評価	出席状況・授業態度・定期試験						
テキスト	レジュメを配付予定						
その他							

注：履修希望・登録及び授業計画の出席・理解は学生の記入欄とする。

科目名	障害児教育・保育			担当者	濱田祥子		
対象学年	履修区分	授業形態	単位数	期間	履修希望	履修登録	
2年	必修	演習	2	半期	YES NO	YES NO	
講義の概要	<p>概要：1. 一般保育と障害児保育との連続性の理解と一人ひとりの発達上の課題に対しての特別な保育ニーズと支援を明らかにする観点からの障害理解を図る。2. 障害児保育を支える理念の理解を深める。3. 保育所、障害乳幼児通園施設等の保育の変遷と現状、及び今後の課題を理解する。4. 様々な障害についての理解を図り、個別的な保育上の留意点について学習する。5. 障害児保育における、日常生活動作、食事、排泄、更衣等の具体的な保育方法の理解を図る。6. 相談機関等の種類と内容を理解し、障害児への個別的援助の概略と保護者を中心とした支援内容について理解する。</p> <p>教育目標：1. 「障害」の概念を理解する。2. 障害児教育・保育の理念と現状を理解する。3. 障害児教育・保育の内容と方法の基礎を理解する。</p> <p>学習成果の達成度：障害を持つ子どもを取り巻く状況や保育の方法や支援に関する基礎的な理解をしている。</p>						
授業計画	週	内 容				出席	理解
	1 2 3 4 5～10 11 12 13 14 15	「障害」とは何か 障害児教育・保育の理念 障害児教育・保育の変遷と現状 保育現場で「気になる子」とは 障害の種類、及び教育・保育の内容と方法 保育現場における、まわりの子どもたちへの対応 障害児への支援①保育現場での連携 障害児への支援②地域、専門機関との連携 障害児への支援③家庭との連携 まとめ					
成績評価	出席状況、レポート						
テキスト	なし（授業時に配付する資料を参照）						
その他							

注：履修希望・登録及び授業計画の出席・理解は学生の記入欄とする。

科目名	教 育 法 規			担当者	鈴 木 勝 雄		
対象学年	履修区分	授業形態	単位数	期 間	履修希望	履修登録	
2年	選択	講義	2	半期	YES NO	YES NO	
講義の概要	<p>概要：望ましい教育活動の展開のため法的視点を設定し、教育の場における現実的な課題をふまえながら、講義する。</p> <p>教育目標：専門職として、教師の法的理解力の基礎を身につける。</p> <p>学習成果の達成度：教師として、法に支えられた教育活動の理解を図る。</p>						
授業計画	週	内 容				出席	理解
	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15	憲法と教育基本法 学校教育法と児童福祉法 幼稚園設置基準と保育所設置基準 幼稚園と保育所の違い 設定こども園 「幼稚園教育要領；保育所保育指針」と法的根拠 幼稚園教育要領について・その1 幼稚園教育要領について・その2 幼稚園教育要領について・その3 保育所保育指針について・その1 保育所保育指針について・その2 個人情報の取り扱い・守秘義務 いじめと体罰；児童虐待 安全と危機管理 まとめ：教員免許更新制の導入					
成績評価	レポート、筆記試験、出席状況等により総合判定する。						
テキスト	「講義プリント」や教育法規関係の資料等を毎回配付し、講義する。						
その他	レポートなどの提出を求め、各自の学習状況の様子を最重要視する。						

注：履修希望・登録及び授業計画の出席・理解は学生の記入欄とする。

科目名	学 級 経 営			担当者	鈴 木 勝 雄		
対象学年	履修区分	授業形態	単位数	期 間	履修希望	履修登録	
2年	選択	講義	2	半期	YES NO	YES NO	
講義の概要	<p>概要：園の教育目標実現のため、学級担任の意図的な教育活動を推進し、望ましい学級を効果的に形成させるべく、講義する。</p> <p>教育目標：学級担任としての教師の資質と能力の基礎を身につける。</p> <p>学習成果の達成度：学級担任としての実践力の向上を図る。</p>						
授業計画	週	内 容				出席	理解
	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15	園の教育目標と学級の目標 学級経営案の性格と機能 学級担任と学級経営（環境と子ども） 学級集団と子ども理解 発達の道筋・その1 発達の道筋・その2 発達の道筋・その3 危機管理の智恵・その1 危機管理の智恵・その2 保護者との交流（保育参加と保育参観） 保護者との交流（懇談会） 保護者との交流（家庭訪問） 保護者との交流（総合的視点から） 学級経営の評価 まとめ・学級と教育環境					
成績評価	レポート、筆記試験、出席状況等により総合判定する。						
テキスト	「講義プリント」や資料を毎回配付し、講義する。						
その他	レポートなどの提出を求め、各自の学習状況の様子を最重要視する。						

注：履修希望・登録及び授業計画の出席・理解は学生の記入欄とする。

科目名	教 育 技 術			担当者	木 全 晃 子		
対象学年	履修区分	授業形態	単位数	期 間	履修希望	履修登録	
2年	選択	演習	2	半期	YES NO	YES NO	
講義の概要	<p>概要：教育実践の中で教師と子どもがどのように影響し合い、学んでいくのか、ソフト面およびハード面の両面に着目しながら学んでいく。</p> <p>教育目標：教職員免許法等に規定されている「教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む）」について探求し、教師としての実践的力量的の形成を目指す。具体的には、教育実践におけるコンピュータの活用や視聴覚情報提示等のための機器の活用、教材作成のための機器の活用等について、その方法と技術を講義・実習を通して習得する。加えて、指導案の作成とそれについての授業シミュレーションをマイクロティーチングの形で行う。</p> <p>学習成果の達成度：具体的な学習指導（教育指導）、保育指導を実践していく上でのイメージをもつことができたか。保育について他者と協議し合う力や、具体的な実践の技や術を身に付けることができたか。</p>						
授業計画	週	内 容				出席	理解
	1 2 3～6 7 8 9～10 11 12 13～14 15	<p>ガイダンス—教育の方法と技術</p> <p>授業実践における機器とその利用</p> <p>教育実践におけるコンピュータの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育情報処理における活用（個人情報管理・成績処理・活動計画作成） ・授業実践（学習指導）における活用（教材の提示や作成） ・学習活動（調べ学習や発表）のための利用とその指導 <p>視聴覚情報活用のための映像情報機器操作</p> <p>PC、AV 機器以外の教材作成のための機器の活用</p> <p>指導計画と指導案の作成</p> <p>授業シミュレーションによる検証①（マイクロティーチング）</p> <p>授業シミュレーションによる検証②（マイクロティーチング）</p> <p>授業指導プレゼンテーション</p> <p>ポートフォリオの作成</p>					
成績評価	テスト（実技テスト）・提出物・受講状況から総合的に評価する。						
テキスト	『保育者のためのパソコン講座』（阿部正平ほか著、萌文書林）						
その他							

注：履修希望・登録及び授業計画の出席・理解は学生の記入欄とする。

科目名	保育内容・人間関係			担当者	濱田祥子		
対象学年	履修区分	授業形態	単位数	期間	履修希望	履修登録	
2年	必修(幼保)	演習	2	半期	YES NO	YES NO	
講義の概要	<p>概要：「保育内容」の意味を踏まえ、保育と領域の全体構造の理解に基づいた保育方法について学ぶと同時に幼児が人とかかわる力をつけるための実践的な援助の方法について学ぶ。</p> <p>教育目標：「保育内容」は保育の目標を達成するために展開されるすべての内容を意味することを踏まえ、その中での「人間関係」の歴史の変遷について理解する。 発達過程に即して人とかかわる力をつけるための援助や指導が行えるよう実践的な力を修得する。</p> <p>学習成果の達成度：保育所保育における総合的な保育について理解する。 保育所保育指針の「保育内容・人間関係」のねらい、内容、保育の方法等を理解し、具体的な場面での指導や援助の基本的な考え方を基に、実践力を修得する。</p>						
授業計画	週	内 容				出席	理解
	1	かかわりのなかで育つ「人間関係」					
	2	現代社会と子どもの「人間関係」					
	3	領域「人間関係」の考え方					
	4	領域「人間関係」の新しい展開					
	5	領域「人間関係」から子どもの発達について理解する（未満児）					
	6	領域「人間関係」から子どもの保育について考える（未満児）					
	7	領域「人間関係」から子どもの発達について理解する（おおむね3歳）					
	8	領域「人間関係」から子どもの保育について考える（おおむね3歳児）					
	9	領域「人間関係」から子どもの発達について理解する（おおむね4歳）					
	10	領域「人間関係」から子どもの保育について考える（おおむね4歳）					
	11	領域「人間関係」から子どもの発達について理解する（おおむね5歳）					
	12	領域「人間関係」から子どもの保育について考える（おおむね5歳）					
	13	「人間関係」で気になる子ども					
	14	家庭のなかの「人間関係」の変化					
15	まとめ						
成績評価	出席状況、レポート、授業態度等により総合的に評価する。						
テキスト	なし（授業時に配付する資料を参照）						
その他							

注：履修希望・登録及び授業計画の出席・理解は学生の記入欄とする。

科目名	保育内容・言葉			担当者	塚 越 亜希子		
対象学年	履修区分	授業形態	単位数	期 間	履修希望	履修登録	
2年	必修(幼保)	演習	2	半期	YES NO	YES NO	
講義の概要	<p>概要：保育所保育指針ならびに幼稚園教育要領の「保育内容・言葉」の内容を踏まえて、幼児教育における言葉の教育のねらいや内容、方法について理解を図るとともに、言語教材についての考察や自作教材の制作を行う。</p> <p>教育目標：領域・言葉の教科の理解とともに総合的な保育について理解する。 言葉の側面からの子どもの発達を理解し、発達にあった教育のねらいや内容、方法を理解し実践力を養う。</p> <p>学習成果の達成度：5領域と保育の全体構造について理解し、環境を通した総合的な保育の重要性を学ぶ。 言葉の教育について幼児の発達に沿った援助の仕方を身につける。</p>						
授業計画	週	内 容				出席	理解
	1	ガイダンスー「保育内容・言葉」の意味と保育者の言葉					
	2	言葉の獲得と発達①3歳未満児					
	3	言葉の獲得と発達②3歳未満児					
	4	言葉の獲得と発達③幼児期					
	5	言葉の獲得と発達④幼児期					
	6	人とつながる言葉					
	7	言葉で考える、言葉で表現する					
	8	言葉の指導の教材とその展開・絵本の読み聞かせ①					
	9	言葉の指導の教材とその展開・絵本の読み聞かせ②					
	10	言葉の指導の教材とその展開・絵本の読み聞かせ③					
	11	言葉でのかかわりに配慮を必要とする子ども					
	12	授業のまとめと確認					
	13	言葉の指導の教材とその展開・カルタ制作①					
	14	言葉の指導の教材とその展開・カルタ制作②					
	15	発表					
成績評価	レポートの提出や授業への参加状況と試験の結果等で総合評価する。						
テキスト	「演習保育内容言葉」建帛社 戸田 雅美 編著						
その他							

注：履修希望・登録及び授業計画の出席・理解は学生の記入欄とする。

科目名	保育内容・表現Ⅲ			担当者	吉川 由香子	
対象学年	履修区分	授業形態	単位数	期間	履修希望	履修登録
2年	選択	演習	2	半期	YES NO	YES NO
講義の概要	<p>概要：幼児期の子どもたちを対象とした手づくり遊びと劇遊びの研究と実践</p> <p>教育目標：幼児たちの心の緊張を解き、園の生活に安心してとけこめるような手づくり遊びの方法を身につけ、実践する。</p> <p>学習成果の達成度：自分で製作した人形を使って、エプロンシアターを演じたり、観客（子どもたち）の前で創作したお話を上演したりすることができる。</p>					
授業計画	週	内 容			出席	理解
	1	オリエンテーション 「表現」をどう捉えるか。				
2	手づくりあそびのいろいろ					
3～10	手づくりあそびの制作と劇づくり（エプロンシアター・人形劇）					
11	発表会の取り組み①					
12	〃	②				
13	〃	③				
14	発表会					
15	まとめ					
成績評価	出席状況、授業態度、意欲、発表					
テキスト	別途指示する。					
その他	縫い物にも興味と関心をもって臨むこと。					

注：履修希望・登録及び授業計画の出席・理解は学生の記入欄とする。

科目名	教 育 相 談			担当者	松 田 侑 子		
対象学年	履修区分	授業形態	単位数	期 間	履修希望	履修登録	
2 年	必修(幼保)	演習	2	半期	YES NO	YES NO	
講義の概要	<p>概要：保育者は子どもへの発達援助にとどまらず、家族を中心とした地域社会の対人援助者としての役割が求められている。ここでは、対象とする子ども理解の方法や、援助者としての姿勢や態度、具体的な援助の方法についての基本を体得する。</p> <p>教育目標：カウンセリングの基本姿勢を保育の場に生かすカウンセリングマインドについて指導の重要性を学ぶ。</p> <p>学習成果の達成度：カウンセリングマインドを備えた子どもへの接し方や発達を促す援助を考える保育者の姿勢を形成する。</p>						
授業計画	週	内 容				出席	理解
	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15	<p>ガイダンス・「教育相談」と心の諸相</p> <p>教育相談の変遷とカウンセリングマインド</p> <p>教育相談の心と技</p> <p>教育相談の4つの活動</p> <p>話の聴き方の基本</p> <p>子ども理解</p> <p>保護者理解</p> <p>自己を知る</p> <p>子ども理解とカウンセリングマインド・その1</p> <p>子ども理解とカウンセリングマインド・その2</p> <p>子ども理解とカウンセリングマインド・その3</p> <p>アサーション・トレーニングについて（実技指導1）</p> <p>ロール・プレイングについて（実技指導2）</p> <p>グループ・エンカウンターについて（実技指導3）</p> <p>まとめ：教育相談の展望</p>					
成績評価	レポート、筆記試験、出席状況等により総合判定する。						
テキスト	<p>「講義プリント」や教育関係の資料等を毎回配付し、講義する。</p> <p>参考図書：「子ども理解とカウンセリング」「カウンセリング入門」「子ども理解と援助」</p>						
その他	レポートなどの提出を求め、各自の学習状況の様子を最重要視する。						

注：履修希望・登録及び授業計画の出席・理解は学生の記入欄とする。

科目名	総合演習			担当者	森 静子・新井れ江子 木村たか子・木全 晃子	
対象学年	履修区分	授業形態	単位数	期 間	履修希望	履修登録
2年	必修	演習	2	半期	YES NO	YES NO
講義の概要	<p>概要：保育についての自己及び社会の課題について討議・調査・研究をし総合的に理解をさせる。</p> <p>教育目標：保育所や幼稚園等での具体的な保育や、社会全体（文化・制度等）の保育についての課題について調査研究をする中で理解を深める。</p> <p>学習成果の達成度：上記目標をどのように達成していくかを重要視する。テーマ設定の理由に応じた研究の方法、多彩な視点からの理解と考察、発表の工夫等を総合的に評価する。</p>					
授業計画	週	内 容			出席	理解
	1 2～15	授業のガイダンス 授業の目標の解説と課題の設定 課題研究の具体的計画の立案 テーマごとの討議・研究・調査等 研究の発表準備 研究発表				
成績評価	出席、レポート、発表等における総合評価					
テキスト	プリント資料（随時配付）					
その他	主体的に取り組んでほしい。グループで協力すること。					

注：履修希望・登録及び授業計画の出席・理解は学生の記入欄とする。

科目名	教育実習指導Ⅱ			担当者	新井れ江子・木全 晃子 塚越亜希子		
対象学年	履修区分	授業形態	単位数	期 間	履修希望	履修登録	
2年	必修(幼)	実習		半期	YES NO	YES NO	
講義の概要	<p>概要：1年次に行った観察実習の評価、反省、まとめを生かし、2年次の本実習に向けて、学生自らが課題をもち意義ある教育実習にする。</p> <p>教育目標：学生一人一人が、自らの課題にむけて、積極的に取り組む。</p> <p>学習成果の達成度：幼稚園において、実質的な体験をふまえ、よりよい教育実習とする。</p>						
授業計画	週	内 容				出席	理解
	1 2～3 4～5 6 7～8 9～10 11～13 14 15	<p>○本実習に向けての指導 オリエンテーション</p> <p>教材研究（発達段階に応じた教材）</p> <p>指導案の作成と実習記録記入</p> <p>観察実習を踏まえて自己課題の設定（個人指導）</p> <p>演習（ピアノ、絵本、紙芝居、手遊び、パネルシアター等）</p> <p>模擬授業（一斉保育指導）</p> <p>教育実習</p> <p>○実習後の指導</p> <p>自己評価、反省及び実習のまとめ</p> <p>免許取得についてのオリエンテーション</p>					
成績評価	出席、教材研究資料級、指導案、実習幼稚園の評価、実習記録等から総合評価する。						
テキスト	幼稚園教育実習指導テキスト						
その他	『幼稚園教育要領解説』（文部科学省）フレーベル館						

(3) 保 育 士 科 目

注：履修希望・登録及び授業計画の出席・理解は学生の記入欄とする。

科目名	社会福祉論			担当者	川島良雄		
対象学年	履修区分	授業形態	単位数	期間	履修希望	履修登録	
2年	必修(保)	講義	2	半期	YES NO	YES NO	
講義の概要	<p>概要：1. 現代社会における社会福祉の意義、理念について理解する。2. 社会福祉の法体系、制度及び行財政の要旨を理解する。3. 社会福祉サービス体系における公私の役割活動について理解する。4. 社会福祉援助技術及び専門職の役割について理解する。5. 社会福祉関連領域—医療福祉・地域福祉・ボランティア活動等の概要を把握する。6. 利用者保護制度(第三者評価、苦情解決、権利擁護、情報提供等)を理解する。</p> <p>教育目標：社会福祉全般に関する基礎的理解を図る。</p> <p>学習成果の達成度：保育所・幼稚園等の現場で、親や本人の支援のための制度・仕組み・方法についての基礎的理解を習得する。</p>						
授業計画	週	内 容				出席	理解
	1	1. 現代社会と社会福祉の意義					
	2	①社会福祉の理念と概念及び対象と主体					
	3	②現代社会の特徴と福祉ニーズ					
	4	③社会福祉の歴史					
	5	2. 社会福祉の法体系と実施体系					
	6	①法体系と実施体制及び関連制度の概要					
	7	②サービス評価と情報提供					
	8	③社会福祉の制度概要の理解 i					
	9	④社会福祉の制度概要の理解 ii					
	10	⑤社会福祉の制度概要の理解 iii					
	11	⑥社会福祉の行財政、費用負担、公私の役割の理解					
	12	3. 社会福祉従事者 ～専門性と倫理～					
	13	4. 社会福祉援助技術の概要					
	14	5. 利用者保護制度 (第三者評価、苦情解決、権利擁護、情報提供等)					
	15	6. 社会福祉の動向					
16	①少子高齢社会への対応、地域福祉・在宅福祉						
17	②社会福祉基礎構造改革						
18	7. まとめ						
成績評価	授業への参加状況(発表・発言)、レポートを総合評価する。						
テキスト	保育士養成講座編纂委員会編「社会福祉」全国社会福祉協議会						
その他	社会福祉制度は大きく変わりつつあります。しっかり学習してください。						

注：履修希望・登録及び授業計画の出席・理解は学生の記入欄とする。

科目名	社会福祉援助技術			担当者	渡辺敏正		
対象学年	履修区分	授業形態	単位数	期間	履修希望	履修登録	
2年	必修(保)	演習	2	半期	YES NO	YES NO	
講義の概要	<p>概要：保育実践にとって必要な援助技術の概要や歴史を理解するとともに、その中心的方法である個別援助や集団援助技術を学びながら、援助の具体的な進め方を体得する。また、援助者としての基本的姿勢を学び、援助にとって不可欠な自己を知ることも体験する。</p> <p>教育目標：援助技術の体系およびその内容を学び、援助者としての基本姿勢について理解する。また、保育の場で活用できる個別援助や集団援助技術を、事例を用いた演習形式で学ぶ。</p> <p>学習成果の達成度：社会福祉援助技術の諸方法を理解したか。援助者として必要な基本的態度を理解したか。個別援助技術の具体的な過程を体得したか。援助面接の技術を理解したか。</p>						
授業計画	週	内 容				出席	理解
	1	社会福祉援助技術の意義					
	2	社会福祉援助技術の方法					
	3	保育と社会福祉援助技術の関係					
	4	個別援助技術（ケースワーク）					
	5	ケースワークの実際					
	6	援助の基本的原則					
	7	援助者の基本的態度					
	8	ケースワークの進め方(1)					
	9	ケースワークの進め方(2)					
	10	援助の記録と評価					
	11	面接相談の技術(1)					
	12	面接相談の技術(2)					
	13	グループワークの進め方(1)					
	14	グループワークの進め方(2)					
	15	コミュニティワーク					
成績評価	レポート、筆記試験						
テキスト	『保育者のための相談・援助技術』小林育子他編 萌文書林						
その他	知識の吸収だけでなく、人間のこころや自分自身に対する関心を深めて、良き援助実践者としての態度を身につけて欲しい。						

注：履修希望・登録及び授業計画の出席・理解は学生の記入欄とする。

科目名	小 児 保 健 II			担当者	柳 田 悦 子		
対象学年	履修区分	授業形態	単位数	期 間	履修希望	履修登録	
2年	必修(保)	講義	2	半期	YES NO	YES NO	
講義の概要	<p>概要：小児保健Ⅰを基礎に、保育現場と地域との関わり、障害児保育の現状を学ぶ。また、母子保健の現状と母子保健対策について学ぶ。</p> <p>教育目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 小児の健康状態を家庭生活と集団生活のレベルで理解する。 2 小児の健康が家庭や地域と密接な関係があることを理解し、家庭や地域との連携を通じた保育の重要性を理解する。 3 障害児の予防、障害児の特徴、障害児保育について学ぶ。 <p>学習成果の達成度：</p>						
授業計画	週	内 容				出席	理解
	1～2	1 小児の健康に影響する因子と障害の考え方 ・障害の発生原因 ・障害児保育の歴史・障害の考え方 ・障害児保育の実際・家庭との連携					
	3～5	2 小児期における健康管理 ・関連法規から見た健康管理 ・小児の健康と保育 ・保育環境、保育における家庭と地域との連携					
	6～8	3 児童福祉施設等における衛生管理 ・衣服の役割と衣服・寝具の衛生 ・保育室・水の衛生管理 ・衛生害虫の駆除・汚物の処理 ・関連法規から見た衛生管理					
	9～11	4 保育現場における食育 ・給食施設の衛生管理 ・児童福祉施設・学校における給食業務と特徴 ・食環境と食育の必要性、食育のための連携					
	12～15	5 母子保健の現状と母子保健対策 ・小児保健と母性保健 ・母子保健の意義と母子保健行政の歩み ・児童虐待の現状と対策 ・児童福祉施設の種類と特徴 ・母子保健対策の現状					
成績評価	出席状況、筆記試験、必要に応じミニレポート等を総合的に評価						
テキスト	「新・小児保健」今村 栄一・巷野 悟郎						
その他							

注：履修希望・登録及び授業計画の出席・理解は学生の記入欄とする。

科目名	小 児 保 健 実 習			担当者	小 池 佐 智 子		
対象学年	履修区分	授業形態	単位数	期 間	履修希望	履修登録	
2年	必修(保)	実習	1	半期	YES NO	YES NO	
講義の概要	<p>概要：小児保健理論を踏まえて、小児の身体測定法と評価、健康状態の観察と評価、小児によく起こる症状に対する看護、小児の事故と応急処置などを学ぶとともに現場で実践できる技術を身につける。</p> <p>教育目標：</p> <p>①小児の特質である成長・発達を理解し、適切に実践できる保育の知識と技術を習得する。</p> <p>②小児の健康状態を知り、異常の早期発見、病気の予防と健康教育、救急処置、看護について学び、実践できる技術を習得する。</p> <p>③小児の安全に留意し、事故防止および安全な保育環境についての知識と技術を習得する。</p> <p>学習成果の達成度：身体計測の意義や方法、体温・脈拍・呼吸測定などの方法と評価ができる。また、小児に多い症状に対する観察や看護法を理解し、実践できる。</p>						
	週	内 容				出席	理解
授業計画	1	序章 小児保健実習の意義・目的					
	2～4	小児の健康状態の観察 1) 健康観察 ・健康とは ・健康な小児 ・一般状態を観察するポイント 2) 小児の病気の特徴 3) 病気の早期発見 4) 日常生活での手洗い					
	5～7	小児の身体測定とその評価 1) 身体計測法 ・計測時の一般的注意 2) 各部計測法 ・体重、身長、座高、頭囲、胸囲の測定 3) 評価法 ・カウプ指数による判定 ・ローレル指数による判定					
	8～9	小児の生理的機能の測定と観察 1) 体温・脈拍・呼吸の観察と測定方法 2) 排泄の観察 ・便、尿の観察 3) 視覚、聴力の観察と検査法					
	10～12	異常症状の把握の仕方とその手当て 1) 異常に気づいたときの処置 2) 主な異常症状と手当ての仕方 ・発熱 ・けいれん ・腹痛 ・下痢 ・その他の症状に対する看護					
	13～15	事故と応急処置 1) 発達段階と事故の種類 2) 応急処置 ・意識障害 ・止血 ・熱傷 ・その他					
	成績評価	出席状況、学内実習態度（20%）、筆記試験（80%）で評価する。					
テキスト	「小児保健実習」跡見一子 編著 建帛社						
その他							

注：履修希望・登録及び授業計画の出席・理解は学生の記入欄とする。

科目名	小 児 栄 養			担当者	水 野 三 千 代		
対象学年	履修区分	授業形態	単位数	期 間	履修希望	履修登録	
2 年	必修(保)	演習	2	半期	YES NO	YES NO	
講義の概要	<p>概要：自分自身の食生活を見つめ直すことから始め、小児と成人の栄養の違い・ライフサイクルからみた食生活の特徴・障がいを持つ子どもへの援助・食育について調理実習・研究発表を組み合わせ学習する。</p> <p>教育目標：保育者として子どもの心身の発達、健康増進および小児期における望ましい食生活が、人の生涯にわたっての心身ともに健康で質の高い生活を送る基本となることを理解できる。そのためには、保育者として保育における食生活は家族、地域、社会との深い関係のなかで育成されることについての理解を図る。</p> <p>学習成果の達成度：小児における適切な食事とは何かが理解できる。また、現在は有り余る食物や料理に囲まれた飽食の時代と言われているが、小児栄養の分野では小児生活習慣病、咀嚼機能低下、欠食、偏食、肥満、食物アレルギー、孤食、個食などさまざまな問題が引き起こされていることについて解明できる。</p>						
授業計画	週	内 容				出席	理解
	1	小児栄養の意義と重要性					
	2	小児栄養の現状と問題点					
	3	栄養の基礎知識					
	4	出生前の栄養と授乳期の栄養					
	5	調理実習（調乳方法）					
	6	乳児期の栄養					
	7	調理実習（月齢別離乳食の作り方）					
	8	幼児期の栄養					
	9	調理実習（幼児期の間食の作り方と市販のお菓子、飲み物等の比較研究）					
	10	学童・思春期の栄養					
	11	障害児（者）の食事・小児期の疾病と食生活					
	12	児童福祉施設における食生活					
	13	保育者による食育・栄養教育・世界の子どもの食生活と栄養					
	14	グループ研究発表（小児栄養の現状の問題・行事食・郷土食の伝承の研究）					
	15	まとめ					
成績評価	出席、調理実習レポート、グループ研究発表、試験の総合評価						
テキスト	上田玲子編著 子どもの食生活第2版—保育と小児栄養—（ななみ書房）						
その他	<p>グループごとに選んだテーマに沿って、時間をかけて十分話し合いまとめてグループ発表ができるようにする。</p> <p>参考図書 上田玲子編著 水野三千代ほか共著「子どもの食生活別冊 小児栄養献立集」ななみ書房 中原澄男「乳幼児の栄養と食生活指導」第一出版 戸谷誠之「子どもの食事とアレルギー Q&A」第一出版 農文協編「食育のすすめ 6つの視点・18のプラン」農山漁村文化協会 藤谷順子ほか「嚥下障害食のつくり方」日本医療企画</p>						

注：履修希望・登録及び授業計画の出席・理解は学生の記入欄とする。

科目名	精神保健			担当者	渡辺敏正		
対象学年	履修区分	授業形態	単位数	期間	履修希望	履修登録	
2年	必修(保)	講義	2	半期	YES NO	YES NO	
講義の概要	<p>概要：子どもの精神発達の特徴と、精神的健康を促すための適切な保育のあり方を学ぶとともに、精神身体医学の知識を基にしながら、子どもにみられる精神的な歪みや障害の概要について学習する。また、子どもの精神的健康の保持増進のために、家庭や保育所、関係機関との連携の重要性についても学ぶ。</p> <p>教育目標：子どもの精神発達の様相や、各発達段階におけるこころの健康障害の内容を理解し、その実態を認識するとともに、子どもの健全育成を目指した適切な対応法を学ぶ。</p> <p>学習成果の達成度：子どもの精神保健の意義を理解したか。さまざまなこころの健康障害を理解したか。関係機関の機能と連携のあり方を理解したか。</p>						
授業計画	週	内 容				出席	理解
	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15	保育における精神保健 精神発達と脳神経系の成熟 胎児期の発達と精神保健 乳児期の発達と精神保健 幼児期の発達と精神保健 児童、思春期の発達と精神保健 家族関係と精神保健 生活環境と精神保健 保育活動と精神保健 小児期のこころの問題(1) 小児期のこころの問題(2) 小児期のこころの問題(3) 保育所の精神保健活動 子育て支援とこころの健康づくり 地域の精神保健活動					
成績評価	筆記試験						
テキスト	プリント教材						
その他	保育者としてこころの健康を考えるとともに、子どもの精神発達の基盤づくりにどのように関わることができるかを学んで欲しい。						

注：履修希望・登録及び授業計画の出席・理解は学生の記入欄とする。

科目名	家族援助論			担当者	木全晃子		
対象学年	履修区分	授業形態	単位数	期間	履修希望	履修登録	
2年	必修(保)	講義	2	半期	YES NO	YES NO	
講義の概要	<p>概要：保育所や児童福祉施設における子育て支援は、重要な社会的役割であることを理解するとともに、最近の社会環境や家族形態の変化により、保育所による家族援助の必要性が高まっていることを学ぶ。また、現代の家庭からの多様なニーズに対応する種々の援助活動と子育て支援にかかわる関係機関との連携についても学習する。</p> <p>教育目標：現代における家族援助の意義と必要性を理解し、家族の抱える多様な問題について認識を深め、保育の場における家族援助活動の基本姿勢・基本的考え方を習得する。</p> <p>学習成果の達成度：家族機能の諸相を理解したか。子育て支援の意義を理解したか。種々の家族援助活動を理解したか。関係機関との連携の意義を理解したか。</p>						
授業計画	週	内 容				出席	理解
	1 2 3 4～5 6～7 8 9 10 11 12 13 14 15	<p>ガイダンス—家族とは何か</p> <p>家族の意義と機能</p> <p>家族の動向と現状</p> <p>家族をとりまく社会環境の変化と子育て「困難」</p> <p>子育て家庭支援の政策と制度</p> <p>保育所における家族援助</p> <p>男女共同参画社会と子育て（育休を例として）</p> <p>家族援助の方法と過程①（相談援助）</p> <p>家族援助の方法と過程②（ひろばでの援助）</p> <p>特別なニーズを持つ家族と援助①（障害児をもつ家族）</p> <p>特別なニーズを持つ家族と援助②（ひとり親家庭とステップファミリー）</p> <p>特別なニーズを持つ家族と援助③（虐待が起きた家族）</p> <p>まとめ</p>					
成績評価	テスト（筆記試験）・提出物・受講状況から総合的に評価する。						
テキスト	松本園子等『実践・家族援助論』（ななみ書房）						
その他							

注：履修希望・登録及び授業計画の出席・理解は学生の記入欄とする。

科目名	養 護 内 容			担当者	川 島 良 雄		
対象学年	履修区分	授業形態	単位数	期 間	履修希望	履修登録	
2年	必修(保)	演習	2	半期	YES NO	YES NO	
講義の概要	概要： 1. 模擬的に居住型の児童福祉施設などを利用している児童の立場になったり、生活プログラムを作成するなどの演習をとおして、日常的に展開されている具体的な児童の生活や援助を理解する。 2. 児童の心身の成長や発達を保障し援助するために必要な知識や技能を修得する。 3. 児童観や施設養護観を養う。 教育目標： 1. 居住型児童福祉施設における養護内容を理解する。 2. 発達保障に必要な知識技能を習得する。 3. 児童観、施設観の形成を図る。 学習成果の達成度：入所型児童福祉施設における児童養護の内容・方法について、基礎的な理解をしている。						
	週	内 容				出席	理解
授業計画	1	1. 児童福祉施設利用者	①家庭環境により家庭で生活することができない子どもたち				
	2		②心身に障害があるために専門的なケアを必要とする子どもたち				
	3	2. 援助(養護)の理念	①子どもの最善の利益				
	4		②生存と発達の保障				
	5		③権利擁護				
	6	3. 援助(養護)の内容	①基本的な日常生活の援助				
	7		②心の傷を癒したり、心を育むための援助				
	8		③親子関係を調整するための援助				
	9		④学校や地域などとの関係を調整するための援助				
	10		⑤自己実現・自立への援助				
	11		⑥まとめ				
	12	4. 児童福祉施設援助者	①援助者としての資質、倫理				
	13		②個別援助技術、集団援助技術				
	14	5. 今後の課題					
	15	6. まとめ					
成績評価	授業への参加状況(発表・発言)、レポートを総合評価する。						
テキスト	福永博文編著 新・保育ライブラリー「養護内容」北大路書房						
その他							

注：履修希望・登録及び授業計画の出席・理解は学生の記入欄とする。

科目名	保育実習指導Ⅱ			担当者	森 静子・木村たか子 濱田 祥子・塚越亜希子		
対象学年	履修区分	授業形態	単位数	期 間	履修希望	履修登録	
2年	必修(保)	実習		半期	YES NO	YES NO	
講義の概要	<p>概要：保育実習Ⅱ及びⅢを円滑に進めていくために、保育実習Ⅰでの実践を通じた学びの反省と評価を行い、それぞれの課題を明確にする。</p> <p>教育目標：保育実習Ⅰでの反省と評価を踏まえ、保育者としての自己課題を明らかにし、保育実習Ⅱ及びⅢに向けて具体的な取り組みをする。</p> <p>学習成果の達成度：保育実習Ⅰでのねらいや目標が達成できたか、自己課題はどのようなことか明らかにし、保育実習Ⅱ及びⅢに向けて各自の課題を具体的に設定し、施設や利用者（子ども）についての理解を深める。</p> <p>保育実習Ⅱ及びⅢの反省評価をもとに保育者としての自己の課題を明らかにする。</p>						
授業計画	週	内 容				出席	理解
	1	保育実習の意義、目的、内容の再認識と事務手続き					
	2	保育実習Ⅰの反省と評価及び自己課題（個人指導）					
	3	保育実習Ⅰの反省と評価及び自己課題（個人指導）					
	4	保育実習Ⅰの反省と評価及び自己課題（個人指導）					
	5	保育実習Ⅰの反省と評価及び自己課題（個人指導）					
	6	保育実習Ⅰの反省と評価及び自己課題（個人指導）					
	7	保育実習Ⅰの反省と評価及び自己課題（個人指導）					
	8	保育実習Ⅰの反省と評価及び自己課題（個人指導）					
	9	保育実習Ⅱ及びⅢに向けて・指導案の書き方①					
	10	保育実習Ⅱ及びⅢに向けて・指導案の書き方②					
	11	保育実習Ⅱ及びⅢに向けて・指導案の書き方③					
	12	保育実習Ⅱ及びⅢに向けて・日誌の書き方					
	13	保育実習Ⅱ及びⅢに向けて・課題のたて方					
	14	保育実習Ⅱ及びⅢの反省と評価					
	15	保育実習Ⅱ及びⅢの反省と評価					
成績評価	レポートの提出や授業への参加状況等で総合評価する。						
テキスト	「幼稚園・保育所・施設実習テキスト」健帛社 二階堂邦子編集（1年時と同じ）						
その他	実習Ⅱ及びⅢに向けて主体的、積極的に取り組んで欲しい。						

注：履修希望・登録及び授業計画の出席・理解は学生の記入欄とする。

科目名	保 育 原 理 II			担当者	木 村 たか子		
対象学年	履修区分	授業形態	単位数	期 間	履修希望	履修登録	
2 年	選必(保)	講義	2	半期	YES NO	YES NO	
講義の概要	<p>概要：保育原理 I の学びを基に、保育所保育指針を読み解き、就学前教育の特徴や体系的組織的な幼児施設の営みを深く理解する。</p> <p>教育目標：保育所保育指針（含解説）を現実の保育所保育の実際を確認しながら深く読み解き、保育士として養護と教育が一体となった保育について理解するとともに、組織の一員としての、保育士の役割を理解する。</p> <p>学習成果の達成度：保育所保育指針の基本的概念を理解し、子どもの権利について深く考え、保育士として自覚をもって子どもの指導や援助にあたる力を修得する。</p>						
授業計画	週	内 容				出席	理解
	1	子どもの権利条約の理解					
	2	第1章 総則					
	3	第1章 総則					
	4	第2章 子どもの発達					
	5	第2章 子どもの発達					
	6	第3章 保育の内容					
	7	第3章 保育の内容					
	8	第4章 保育の計画及び評価					
	9	第4章 保育の計画及び評価					
	10	第5章 健康及び安全					
	11	第5章 健康及び安全					
	12	第6章 保護者に対する支援					
	13	第6章 保護者に対する支援					
	14	第7章 職員の資質向上					
	15	幼児施設に保育士として働く意味					
成績評価	レポートの提出や授業への参加状況と試験の結果等で総合評価する。						
テキスト	保育所保育指針						
その他	子どもに大きな影響を与える立場になること、乳幼児の施設に働く意味や組織の中で働く意味を探求して欲しい。						

注：履修希望・登録及び授業計画の出席・理解は学生の記入欄とする。

科目名	臨 床 心 理 学			担当者	松 田 侑 子		
対象学年	履修区分	授業形態	単位数	期 間	履修希望	履修登録	
2年	選必(保)	講義	2	半期	YES NO	YES NO	
講義の概要	<p>概要：臨床心理学は、心の病や心の傷とその癒しに関する学問です。</p> <p>教育目標：心の病や心の傷についての理解、さらには、そうした心の病や傷を抱える人への心理的援助に関する理解を深めることが目的です。</p> <p>学習成果の達成度：保育の現場で子どもやその家族を援助する方法を学ぶこと、自分自身がよりいきいきと過ごすための実践的な知識とスキルを身につけることを目指す。</p>						
授業計画	週	内 容				出席	理解
	1 2～4 5・6 7・8 9～11 12・13 14 15	臨床心理学とは？臨床心理学がかかわる領域 心理的問題に対するアプローチ—代表的な心理療法— 心理的問題のアセスメント—代表的な心理検査— 心理的問題とその対応—おとなの場合— 心理的問題とその対応—子どもの場合— ストレスとその対処の仕方 保育の現場における相談活動 まとめ					
成績評価	出席状況、定期試験、レポート						
テキスト	レジュメ 配付予定						
その他							

注：履修希望・登録及び授業計画の出席・理解は学生の記入欄とする。

科目名	乳 児 保 育 Ⅱ			担当者	木 村 たか子		
対象学年	履修区分	授業形態	単位数	期 間	履修希望	履修登録	
2年	選必(保)	演習	2	半期	YES NO	YES NO	
講義の概要	<p>概要：乳児保育の意義と実態を理解し、乳児の発達を再確認し、乳児を集団で保育する課題について考察する。またこの時期の子どもに適した「子どもが関わって遊ぶおもちゃ」を製作する。</p> <p>教育目標：乳児を集団で保育することの良さやリスクについて理解し、担当する保育士としての基本的な考え方を学ぶ。 乳児保育をする上でさまざまな機関や保護者、保育士同士の連携の重要性を理解する。 乳児の発達を再確認し、乳児の過ごす環境や安全について理解する。</p> <p>学習成果の達成度：乳児の発達と生活について理解し、乳児に最もふさわしい生活や遊びや環境を明らかにする。 保護者指導や保育士同士の連携の重要性を理解し関係構築の力を修得する。</p>						
授業計画	週	内 容				出席	理解
	1	日本の社会の変化と乳児保育の必要性					
2	乳児保育の基本（養護ということ）						
3	乳児の発達と保育①脳の発達						
4	乳児の発達と保育②脳の発達						
5	乳児の発達と保育③排泄の自立・嘔みつきひっかき						
6	乳児の発達と保育④衛生管理と安全管理						
7	乳児の発達と保育⑤保育室の環境構成						
8	保護者とともに育てる（乳児を持つ親への保護者支援とは）						
9	救急救命法を学ぶ						
10	救急救命法を学ぶ						
11	応答的保育とは						
12	応答的保育の重要性						
13	乳児が関わって遊ぶおもちゃを作る						
14	同上						
15	乳児のおもちゃの発表						
成績評価	レポートの提出や授業への参加状況と試験の結果等で総合評価する。						
テキスト	保育所保育指針						
その他	授業中は集中して課題に取り組むこと						